

# 設置の趣旨等を記載した書類 目次

①	設置の趣旨及び必要性	1 頁
②	学部・学科等の特色	4 頁
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	5 頁
④	教育課程の編成方針の考え方及び特色	6 頁
⑤	教員組織の編成の考え方及び特色	11 頁
⑥	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	13 頁
⑦	施設、設備等の整備計画	15 頁
⑧	入学者選抜の概要	18 頁
⑨	取得可能な資格	21 頁
⑩	実習の具体的計画	22 頁
⑪	管理運営	30 頁
⑫	自己点検・評価	31 頁
⑬	情報の公表	33 頁
⑭	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	41 頁
⑮	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	43 頁

## ① 設置の趣旨及び必要性

### 1. 大学の教育理念

大谷大学は、明治 34 年東京巢鴨に真宗大学を開設して以来、一貫して人間に関わる事象を教育・研究の対象として扱ってきた。また、学則に「本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的とする」と定め、仏教精神とりわけ浄土真宗の理念にもとづき「本願他力」「自信教人信」の教義から「自己の信念の確立」をめざした高等教育を行ってきた。そして、昭和 24 年の新制大学となった際、仏教学科・哲学科・史文学科の 3 学科をもつ文学部を開設し、昭和 40 年には真宗学科・社会学科・史学科・文学科を設けて 6 学科となり、平成 5 年には国際文化学科、平成 12 年には人文情報学科、平成 21 年には教育・心理学科を設置し現在に至っている。

こうした沿革をもつ本学の出発点は、明治 34 年の真宗大学開校の辞である。その辞において初代学長清沢満之が、本学は「宗教学校」であり「仏教の中において浄土真宗の学場」であると宣言して以降、本学は一貫して自己の立脚地を明らかにし、「人間とは何か」を追求することを大学全体の基本理念としてきた。さらに、大正 14 年の入学宣誓式で第 3 代学長佐々木月樵は「大谷大学樹立の精神」という講演を行い、大谷大学が「宗教と教育」を両輪としつつ「仏教精神に基づく人格の陶冶」を使命とする大学であることを表明し、その教育理念を「本務遂行・相互敬愛・人格純真」の三モットーとして定めた。これは「為すべき本務を遂行」し、「相互に敬い合いながら生きることのできる世界を模索」し、「自ら純真なる人格を形成する」ことである。そして、この「本務遂行・相互敬愛・人格純真」のなかに、本学はいまなお教育理念を見出し、そのより高次の実現をめざしている。

### 2. 教育学部を設置する理由・必要性

わが国における教育の現状を見渡すとき、たとえば社会性の未発達、コミュニケーション能力の低下、他者への思いやりの欠如、生命への畏敬の念の不十分さなどといった深刻な教育問題が起こっている。このような教育をめぐる状況において、教育問題を問題として正しく理解し、適切に対応する能力を備えた新しい教育者の養成が今日、以前にもまして求められている。

この教育問題を問題として正しく理解し、適切に対応する能力を備えた新しい教育者という、社会的に要請されている教育者像には、立場や主張の違いによってさまざまに異なった具体的な形が与えられるであろう。そのようななかで、本学の教育理念である「本務遂行・相互敬愛・人格純真」にもとづくならば、その教育者像は次のように具体的に捉え直すことができる。すなわち、<仏教的慈悲の精神を基盤として、子どもの主体的な育ちを支えつつ、子どもとともに成長することができる開かれた教員・保育者>である。この考えのもとで本学は、こうした仏教的慈悲の精神を本源とした教員・保育者を養成し教育・

保育の現場へと送り出して、わが国の教育・保育のより一層の展開に寄与することを自らの社会的使命として位置づけ、その実現を目的とした教育学部の設置を望むに至った。

たしかに、わが国には、教員・保育者の養成を主たる任務とする学部をもつ大学は多数存在している。しかしながら、そのような状況下で本学が教育学部を設置する理由はほかでもない、＜仏教的慈悲の精神を基盤として、子どもの主体的な育ちを支えつつ、子どもとともに成長することができる開かれた教員・保育者＞を養成することができるのは本学しかないからである。その意味でいえば、仏教的慈悲の精神を本源とした教員・保育者の養成という独自性のなかに、本学が設置しようとする教育学部の意義を見出すことができる。

こうした意義をもつ教育学部の設置の必要性を明らかにするために、「慈悲」という言葉を手がかりに考えたい。「慈悲」の「慈」とは、他者に喜びを与えたいとする心であり、「悲」とは、他者の苦しみを取り除きたいとする心のことである。自己の利害を中心に置いて思考する傾向をもつ人間に対して、仏教では、常に慈悲にあふれた人格を形成するように教え勧めている。この観点から、上に述べた仏教的慈悲の精神を本源とした教員・保育者は、以下のようにいえることができる。すなわち、子どもを、人間の本務としての慈悲の心をもって相互敬愛の関係を創造することができる純真な人格へと形成しながら、みずからもそのような人格として生成していくことができる教員・保育者である。そのような仏教思想を体現した教員・保育者は、近代西洋に誕生した合理主義・個人主義に支えられた日本の戦後教育が現在抱えている閉塞感を打開し、その戦後教育が生み出した深刻な教育問題に新しい光を投げかける可能性をもっている。その点から、仏教思想を体現した教員・保育者の養成は強く求められ、その養成を行うことができる教育学部の設置はぜひとも必要なのである。

このように社会的に見て高い存在価値を有する教育学部を設置するために、本学は平成 21 年に設置した文学部教育・心理学科を教育学部へと発展的に改組したいと考えている。その手法を選ぶのは次のような理由からである。既存の文学部教育・心理学科はこれまで、宗教的情操を涵養する教育を基礎教育とし、小学校教諭 1 種免許状、幼稚園教諭 1 種免許が取得可能な教員養成に堅実に取り組んできている。現代社会が要請する新しい教育者像にもとづいて、こうした実績のある教員養成の課程に、保育士資格が取得可能な保育者養成課程を新たに付加し、質的に向上させつつ量的に拡充することによって教育学部を構築することが最善の方法だと判断したからである。

このようにして構築された教育学部の設置のもう一つの必要性は、いま教育・保育を取り巻いている顕著な具体的状況に対応することにある。インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進が着実に行われるなかで、特別支援学校のみならず幼稚園・小学校・中学校・高等学校等において特別支援教育の一定の専門性のある教員が求められている。さらに、たとえばポルトガル語・中国語といった外国語を母語とする子どもの問題も、滋賀県など地域的には喫緊の課題となっている。かれらに対して日本語教育を行い、さらに日本語の能力に応じた特別の指導を実施する際に、ポルトガル語や中国語に通じた小学校教員が求められている。

また、幼児教育と保育との一体化を求める社会的動向のなかで平成 27 年から、子ども・

子育て関連三法による子ども・子育て支援新制度が新たに導入された。この制度は、認定こども園を普及させ、待機児童を解消し、幼児教育と保育の質を高めると同時に地域の子育て支援を充実させることを意図している。こうした制度的意図のもとで、従来の保育者養成を未来に向けて高度化することが望まれている。

このような現在に顕在化している多様な社会的ニーズに、本学が設置しようとする教育学部は積極的に応えて行くことを目的としている。したがって、こうした社会的ニーズのあるまさにこのときに、本学に教育学部が設置される必要性は十分にあり、その設置の社会的意義も大きいと考える。

### 3. 教育上の目的（養成する人物・学生に習得させる能力）

このような教育学部において養成する人物は上に述べたように、＜仏教的慈悲の精神を基盤として、子どもの主体的な育ちを支えつつ、子どもとともに成長することができる開かれた教員・保育者＞である。それは換言すれば、子どもを、人間の本務としての慈悲の心をもって相互敬愛の関係を創造することができる純真な人格へと形成しながら、みずからもそのような人格として生成していくことができる教員・保育者である。このいわば理念としての教員・保育者は、以下のような形として具体化される。

- (1) 子どもの育ちに寄り添う、優しくかつ頼りがいがある人間性豊かな教員・保育者
- (2) 時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育・保育技術を有する資質の高い教員・保育者
- (3) 教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員・保育者

本学では、このような人物の養成を教育上の目的として、学生に次のような具体的な能力を修得させることをめざす。

- (1) すべての子どもに対して平等に接し、そして子ども一人ひとりの人柄に応じた教育・保育活動を行うことのできる能力
- (2) 教育学・保育学に関する知識や技術を駆使して、さまざまな状況に対応し教育・保育活動を行い、教育・保育の諸問題を自ら解決する能力
- (3) 特別支援教育に関する知識や技術を駆使して、インクルーシブ教育に対応しさまざまな子どもに関わることのできる能力

以上の能力はいずれも、仏教的慈悲の精神にもとづくものであるのはいうまでもない。

### 4. 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

この教育上の目的をもとにして、学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めることができる。それは次の通りである。

教育上の目的にしたがって設定された授業科目を履修し、基準となる単位数を修得して、以下に挙げる能力を身につけた学生に学位を授与する。

〔態度〕	子どもと関わることを通して、人間存在への慈しみや、教育愛を持つことができる。
〔技能・表現〕	教育に関する指導法の習得を通して、他者とコミュニケーションを取ることができ、円滑な人間関係を形成することができる。
〔知識・理解〕	教育に関わる人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。
〔関心・意欲〕	教育を中心とする社会・自然の諸問題に関して、課題を設定しようとする意欲をもつ。
〔思考・判断〕	人文・社会諸科学の幅広い知識を用いて、教育に関わる諸問題の諸相を分析することができる。
〔態度〕	教育の諸問題への理解を深めながら、より良い社会形成へと主体的に取り組むことができる。

## 5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

組織として研究対象とする中心的な学問分野は、教育学、保育学、教科教育学、教育心理学、児童福祉学である。

### ② 学部・学科等の特色

本学が設置しようとする教育学部は、仏教的慈悲の精神を基盤として、子どもの主体的な育ちを支えつつ、子どもとともに成長することができる開かれた教員・保育者の養成を教育上の目的としている。この教員・保育者の養成はそのまま、本学教育学部の機能として位置づけ直すことができる。つまり、本学教育学部がもつ主要な機能は、仏教的慈悲の精神にもとづき、子どもとの共存のなかで子どもの発達を援助するばかりでなく、自身も子どもとともに相互に生成変容することができる教員・保育者の養成のなかに求められる。

こうして養成された教員・保育者は、小学校、幼稚園、認定こども園、保育所などのさまざまな教育・保育の場で活躍することが期待されることから、この教員・保育者の養成は、「幅広い職業人養成」（中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」）として捉え直すことができる。したがって、この「幅広い職業人養成」こそが、本学教育学部の主要な機能をなしている。そして、このように「幅広い職業人養成」をとりわけ仏教的慈悲の精神に依拠して行う点に、本学教育学部の際立った第一の特色を見出すことができる。

本学教育学部では、この「幅広い職業人養成」を〈初等教育コース〉と〈幼児教育コース〉という二つのコースにおける養成によって行う計画である。このように「幅広い職業人養成」のために二つの養成コースを設定するのは、養成される職業人の幅広さは、養成コースの複数性によって裏打ちされていなければならない、後者が前者の実現を確実なものにするはずであると考えたからである。要するに、〈初等教育コース〉は小学校の教員の養成を、〈幼児教育コース〉は幼稚園・認定こども園・保育所の教員・保育者の養成をそれぞれ専門的組織的に、しかし相互に緩やかなつながりをもちつつ行うことで、「幅広い職業人養成」が可能になると考えられる。この二つのコースの設定が、本学教育学部の第二の特色をなす。

そして、この「幅広い職業人養成」という主要な機能は、教育学、保育学、教科教育学、教育心理学、児童福祉学という「特定の専門的分野の教育・研究」（中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」）というもう一つの機能によって支えられているのはいうまでもない。本学教育学部に所属するどの教員も、自らの専門的分野を研究し、その研究内容を教育内容として再構成して教育するのであり、このことが「幅広い職業人養成」へと至る唯一の道なのである。

以上を踏まえれば、「幅広い職業人養成」と「特定の専門的分野の教育・研究」という諸機能を担い、後者を基礎としつつ前者に比重を置くことが、本学教育学部の第三の特色であると同時に、その機能上の特色を形成している。

### ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### 1. 学部・学科の名称

「①設置の趣旨及び必要性」において述べたように、本学が設置しようとする学部・学科の教育上の目的は、仏教的慈悲の精神を基盤として、子どもの主体的な育ちを支えつつ、子どもとともに成長することができる開かれた教員・保育者の養成である。この教員・保育者の具体的な姿は、(1)子どもの育ちに寄り添う、優しくかつ頼りがいがある人間性豊かな教員・保育者、(2)時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育・保育技術を有する資質の高い教員・保育者、(3)教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員・保育者である。また、組織として研究対象とする中心的な学問分野は、教育学、保育学、教科教育学、教育心理学、児童福祉学である。

この教育上の目的と組織として研究対象とする中心的な学問分野という二つの事項を相互に関連づけて捉え直すならば、教育学、保育学、教科教育学、教育心理学、児童福祉学という学問分野を中心に研究することで得た知見を、上記の教員・保育者の養成という教育上の目的に沿いながら教育課程として再構成する。そして、こうして体系的に編成された教育課程にしたがって、学生に対して教育を行う。これこそが、本学が設置しようとする学部・学科の教育のありようである。

このような教育のありようをもつ学部・学科の名称について考えるとき、「教育学部・教育学科」が最もふさわしいものと判断される。そのため、本学が設置しようとする学部・学科の名称を「教育学部・教育学科」とする。

## 2. 学位の名称

本学が設置しようとする教育学部・教育学科が授与する予定の学位の名称は、「学士（教育学）」とする。それというのも、本学教育学部・教育学科は、組織として研究対象とする中心的な学問分野を教育学、保育学、教科教育学、教育心理学、児童福祉学と定め、その学問分野の知見にもとづき体系的に教育課程を編成しており、そのような教育課程によって学んだ卒業生には、教育学という専攻分野が付記された学位が与えられるのがふさわしいと考えるからである。

## 3. 学部・学科及び学位の英訳名称

学部・学科及び学位の英訳名称については、日本語名称との整合性と、国際的な通用性との観点から以下のようにする。教育学部と教育学科の英訳名称はそれぞれ、「Faculty of Education」と「Department of Education」とし、学士（教育学）の英訳名称は「Bachelor of Education」とする。

## ④ 教育課程の編成方針の考え方及び特色

### 1. 科目区分

教育課程における科目区分としては、全ての学部・学科に共通で必修である「共通基礎科目」と、学部・学科により異なる「学科専門科目」、全ての学部・学科に共通で教養を深めるための選択科目である「現代総合科目」、幼児教育コースのみに必要な「諸課程科目」の四領域から構成される。次に「共通基礎科目」「学科専門科目」「現代総合科目」「諸課程科目」を構成する科目を概観する。

#### 【共通基礎科目】

「共通基礎科目」は、学士として必要な基礎教養のみならず、将来教員・保育者として必要な基礎知識の修得をめざすものである。具体的には、(1) 総合科目、(2) 大学導入、(3) 必修外国語を設定し、以下のような科目を開設している。

- (1) 総合科目 人間学Ⅰ 人間学Ⅱ
- (2) 大学導入 学びの発見
- (3) 必修外国語 英語

### 【学科専門科目】

「学科専門科目」は、〈初等教育コース〉では、小学校教諭として、〈幼児教育コース〉では、幼稚園教諭・保育士として、必要な基礎知識の修得をめざしており、具体的には、(1) 演習、(2) 概論、(3) 講義、(4) 実践研究、(5) 卒業研究を設定し、以下のよう科目を開設している。

#### 〈初等教育コース〉

- (1) 演習 小学校教育学演習Ⅰ 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ
- (2) 概論 教育原論(小) 仏教と教育(初等)
- (3) 講義 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 特別支援教育概論(初等) 教育人間学Ⅰ 教育人間学Ⅱ 教職入門(小) 教育心理学(小) 発達心理学(小) 教育社会学(小) 教育行財政学(小) 教育課程論(小) 特別活動論(小) 生徒・進路指導論(小) 教育相談(小) こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅰ 探求ゼミ(算数)Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅲ 探求ゼミ(理科)Ⅰ 探求ゼミ(理科)Ⅱ 探求ゼミ(理科)Ⅲ 授業心理学 こどもの描画分析 教室の心理学 障害のある子どもたち(初等) 障害児の教育(初等) 特別支援教育実践論(初等) 防災・安全教育(初等) ICT教育 生涯学習概論
- (4) 実践研究 実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ 初等科教育法(国語) 初等科教育法(社会) 初等科教育法(算数) 初等科教育法(理科) 初等科教育法(生活) 初等科教育法(音楽) 初等科教育法(図画工作) 初等科教育法(家庭) 初等科教育法(体育) 初等科教育法(外国語活動) 道德教育の理論と方法(小) 教科(国語) 教科(社会) 教科(算数) 教科(理科) 教科(生活) 教科(音楽) 教科(図画工作) 教科(家庭) 教科(体育) 教科(外国語活動) 教育実習指導(小) 教育実習Ⅰ(小) 教育実習Ⅱ(小) 教職実践演習(初等) 小学校プログラミング演習 音楽実技Ⅰ-3 音楽実技Ⅱ-3 運動会実践演習 おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ おおたにキッズキャンパス演習Ⅱ
- (5) 卒業研究 卒業研究

#### 〈幼児教育コース〉

- (1) 演習 幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ
- (2) 概論 教育原論(幼) 仏教と教育(初等)
- (3) 講義 教育人間学Ⅰ 教育人間学Ⅱ 発達心理学(幼) 特別支援教育概論(初等) 保育原理Ⅰ 教職入門(幼) 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 教育課程論(幼) 教育方法論(幼) 教育社会学(幼) 教育心理学(幼)



授業心理学 こどもの描画分析 教室の心理学 音楽理論 教育相談(幼) 保育原理Ⅱ 児童家庭福祉 社会福祉 児童文化 社会的養護 障害のある子どもたち(初等) 特別支援教育実践論(初等) 防災・安全教育(初等)

- (4) 実践研究 実践体験活動演習(幼)Ⅰ 実践体験活動演習(幼)Ⅱ 運動会実践演習 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教育実習(幼)Ⅰ 教育実習(幼)Ⅱ 教育実習指導(幼) 教職実践演習(幼) 保育内容総論 保育内容(健康)の理論と方法 保育内容(人間関係)の理論と方法 保育内容(環境)の理論と方法Ⅰ 保育内容(環境)の理論と方法Ⅱ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅰ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅱ 保育内容(表現)の理論と方法 国語(幼) 算数(幼) 体育(幼) 音楽(幼)Ⅰ 音楽(幼)Ⅱ 音楽実技Ⅰ 音楽実技Ⅱ 音楽(幼)Ⅲ 図画工作(幼)Ⅰ 図画工作(幼)Ⅱ 図画工作(幼)Ⅲ 言語表現 野外活動 総合表現演習Ⅰ 総合表現演習Ⅱ 運動遊び指導法 障害児保育 相談援助
- (5) 卒業研究 卒業研究

「小学校教育学演習Ⅰ～Ⅳ」および「幼児教育演習Ⅰ～Ⅳ」では、ゼミ形式の個別的指導を行い、学生の主体的な学習意欲を喚起する。概論科目である「教育原論(小)」「教育原論(幼)」「仏教と教育(初等)」は、本学部の根幹科目であり必須科目とする。「講義科目」および「実践研究科目」では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士として求められる基礎理論や実践的技能や指導力の修得・向上をめざす。とりわけ「実践研究科目」では、教材研究や学習指導案作成、模擬授業等を積極的に行う。

### 【現代総合科目】

「現代総合科目」は、全ての学部・学科に共通で教養を深めるための科目であり、キャリア形成系科目、自然生命系科目、歴史文化系科目に分かれている。学生の興味関心により履修を進めていくが、特に教員養成に関連する以下の科目を受講させる。「ポルトガル語圏の暮らしと言葉」は、滋賀県などで教育課題となっている日本語に通じない児童に対応するための選択科目である。

・キャリア形成系科目 日本国憲法 ポルトガル語圏の暮らしと言葉

### 【諸課程科目】

「諸課程科目」は、幼児教育コースの学生のみを対象とし、保育士資格および(公社)大谷保育協会認定資格・保育心理士資格に関する以下の科目を開設している。

保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子どもの保健Ⅰa 子どもの保健Ⅰb 子どもの保健Ⅱ 子どもの食と栄養 乳児保育 乳幼児心理学 社会的養護内容 家庭支援論 青年心理学 保育相談支援 保育心理士実習 保育心理士実習指導 臨床心理学

## 2. 教育課程編成の考え方

### 〈初等教育コース〉

初等教育コースでの履修科目は、小学校の教員免許状取得に必要な科目を中心に構成されている。主に、(1) 教科に関する科目・教科指導に関する科目、(2) 教育の基礎知識・技術を身につける科目、(3) 宗教的情操を育成する科目の三つに分かれる。

#### (1) 教科に関する科目・教科指導に関する科目

教科に関する科目・教科指導に関する科目では、教科教育の基礎知識と具体的な指導法を身につけることをめざしている。1～2年次に理数系科目(算数・理科)と実技系科目(音楽・図画工作・体育)について、「教科(算数)」「教科(理科)」「教科(音楽)」などの教科に関する科目と「初等科教育法(算数)」「初等科教育法(理科)」「初等科教育法(音楽)」など教科指導に関する科目を、そして2～3年次は、国語・社会・生活・家庭・外国語活動について、「教科(国語)」「教科(社会)」「教科(外国語活動)」など教科に関する科目と「初等科教育法(国語)」「初等科教育法(社会)」「初等科教育法(外国語活動)」など教科指導に関する科目の授業を配当している。また、2～4年次には、「探求ゼミ(算数)Ⅰ～Ⅲ」「探求ゼミ(理科)Ⅰ～Ⅲ」により、理数系科目を重点的に学べるように配慮している。

#### (2) 教育の基礎知識・技術を身につける科目

教育の基礎知識・技術を身につける科目では、教員として身につけておくべき教育学の基礎知識の習得をめざしている。1年次に「教職入門(小)」「教育原論(小)」「教育心理学(小)」等を、2年次に「教育社会学(小)」「教育行財政学(小)」「教育方法論(小)」等を、3年次に「教育課程論(小)」「特別活動論(小)」等を、4年次に「教育実習(小)」「教育相談(小)」「教職実践演習(小)」等の科目を配当している。

#### (3) 宗教的情操を育成する科目

また本学独自の科目として、宗教的情操を育成する科目を設置して、人間的基礎力を身につけ、日々の教育活動のなかで子どもたちに接することを通して精神的な感化をおよぼすこともめざしている。1年次には「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」、2年次には「仏教と教育(初等)」、3年次には「教育人間学Ⅰ」「教育人間学Ⅱ」を配当している。

またそのほかに、1～4年次まで「小学校教育学演習Ⅰ～Ⅳ」(ゼミ)を開講し、全ての学生がゼミに所属することで、それぞれの関心のあるテーマを探究することができる。

### 〈幼児教育コース〉

幼児教育コースでの履修科目は、幼稚園、保育所、認定こども園、その他の児童福祉施設で求められる知識・技能を常に実践と関連付けながら身につけることをめざしている。主に、(1) 理論理解と技能習得に関する科目、(2) 現場経験と省察に関する科目、(3) 保育心理士資格と宗教的情操に関する科目の三つに分かれる。

### **(1) 理論理解と技能習得に関する科目**

幼稚園教諭免許状と保育士資格に必要とされる科目として、1年次には「発達心理学(幼)」 「保育原理Ⅰ」 「教職入門(幼)」等の総論的理論的科目を配置する。そして同時に1～3年次には「子どもの保健」「乳児保育」「教育課程論(幼)」 「保育内容(環境)の理論と方法」「保育内容(健康)の理論と方法」「保育内容(人間関係)の理論と方法」「保育内容(言葉)の理論と方法」等の各論的科目を配する。また教科に関する科目として、音楽、図画工作、体育、国語、算数についても1～3年次に配置する。

### **(2) 現場経験と省察に関する科目**

現場経験を積みながら、それを理論的な学びと循環させ実践力としていくために、1年次前期に現場での経験の意味づけなどについての事前指導を行ったのち、1年次後期から2年次後期まで、幼稚園、保育所現場において継続的な現場経験をもつため、「実践体験活動演習(幼)Ⅰ」を必修科目として配置する。特に、その展開としては、「子どもたちとの遊びや生活体験の共有を通して子どもの思いへの共感」から「保育者の意図や配慮の理解」へと発展することをめざす。

そして2年次2月から3年次にかけて「保育実習Ⅰ」(保育所)、「保育実習Ⅰ」(施設)、「保育実習Ⅱ」(保育所)、もしくは「保育実習Ⅲ」(その他の児童福祉施設)、「教育実習」(幼稚園前期)を配置する。さらに4年次前期には「教育実習」(幼稚園後期)を行い、4年次後期には「保育心理士実習」を行う。

### **(3) 「保育心理士」資格と宗教的情操に関する科目**

1年次から3年次の各学年に「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」「教育人間学Ⅰ」「教育人間学Ⅱ」「仏教と教育(初等)」を配当する。これらの科目は、中核的な科目構成に接続することによって「仏教精神に則り、慈しみの心をもって他者に接することのできる」力を育成することを目標とする。また、公益社団法人大谷保育協会が中心となり展開させてきた「保育心理士」資格取得へ向けた発展的な科目群を選択科目として配置し、幼稚園教諭や保育士として現場に就職した後も学び続けるための基盤を形成する。

このように、演習形式の「保育実習指導」「教育実習指導」で現場経験と理論での学びを統合しながら省察を行い、次の現場経験に向けての課題発見、課題解決へと螺旋状のPDCAサイクルによって、実践力向上をめざすとともに、「幼児教育演習Ⅰ～Ⅳ」において、各自の課題に沿ったテーマを探究することができる。

## **3. 教育課程編成の特色**

教育学部ではカリキュラムの柱を三本設定し、魅力ある教員・保育者を養成する。

### **(1) 「教える力」の確かな育成**

教育学部では、全ての幼児児童に対して平等に接し、そして幼児児童一人ひとりの人柄

に応じた教育活動を行うことのできる教員・保育者を養成する。1年次より教科や保育内容の授業を積極的に行い、模擬授業・模擬保育やディスカッションなど実践型の授業を多く取り入れて、アクティブ・ラーニングの視点に立つ指導法にも十分配慮する。またインクルーシブ教育に対応することのできる教員・保育者を養成する授業を配置して、さまざまな子どもに対応することのできる高度な教育技術やコミュニケーション能力を身につける。

## **(2)「頼りがいのある教員・保育者の基盤」を育成**

教育学部では、教員・保育者となった時に、さまざまな状況に対応して教育活動ができるよう、基礎づくりを行う。教育学・保育学・教科教育学のみならず心理学、社会学、歴史学、哲学等から幅広く知識・技術を修得する。小学校・幼稚園・保育所へのボランティアや地域貢献活動などを通じた実践的な学びの機会を数多く設け、学生が教育の諸問題を自ら解決する能力の育成をめざす。また教育学部ではインクルーシブ教育に対応できる教員・保育者養成を行うことにより、特別支援に関する知識も修得させる。

## **(3)「宗教的情操」の育成**

教育学部では、仏教精神とりわけ真宗の精神を基盤として、人間を信じ、子どもに慈しみの念をもった教員・保育者養成を行う。2年次からは独自科目（「仏教と教育(初等)」「教育人間学Ⅰ」「教育人間学Ⅱ」等）を設定し、教育愛あふれる教員・保育者になれるよう学生同士がともに学んでゆく。さらに、仏教精神をもって教育活動することを通して、社会全体を向上させる教員・保育者を育成する。

以上のように、教育課程編成の特色としては、「共通基礎科目」を1年次に修得したのち、2年～4年次に「概論」「講義」を、1年～4年次に「実践研究」「現代総合科目」「諸課程科目」を学んでゆく。理論と実践を別々に教授するのではなく、教育においては相互が深く関わりあっているという立場から、同時並行的に学ぶのである。教職免許・保育士資格の取得はもちろん、教育者・保育者として長期的に必要な基礎知識・基礎教養の修得も行う。

## **⑤教員組織の編成の考え方及び特色**

### **1. 教員組織編制**

教育学部教育学科は、既存の文学部教育・心理学科を基礎として設置することから、これまでの小学校教員養成・幼稚園教員養成の教員組織を最大限活用する。とりわけ、教育学を本学部の中心学問と定めることから、教育学・保育学・教科教育学・教育心理学・児童福祉学の専門教員を多数配置する。

それぞれの専任教員は専門領域に関する業績をすでに多く有している。初等教育コースでは教授 6 名、准教授 3 名、講師 1 名、(うち博士 5 名、修士 3 名、学士 2 名)、幼児教育コースは教授 4 名、准教授 4 名、講師 1 名(うち博士 3 名、修士 4 名、学士 2 名)の構成になっている。それぞれの教員は著書、研究論文、教育実績、社会貢献活動において顕著な業績を有している。

初等教育コースではカリキュラムを大きく(1)「教科・教科指導に関する科目」、(2)「教育の基礎知識・技術を身につける科目」、(3)「宗教的情操を育成する科目」に分けている。(1)に関しては主に学校現場で教育歴のある教科教育学(国語、算数、音楽、体育、理科等)の教員を配置し、教科指導の専門性を発揮する。とりわけ算数・理科等教科の基礎知識を学生が習得できるように科目設定しており、その科目に応じた教員を強力的に配置した。また(2)に関しては主に教育哲学・教育史・教育心理学の教員を、(3)に関しては仏教教育学の教員を配置し、実践知を理論的に体系化できるように教員配置を行った。

幼児教育コースではカリキュラムを大きく、(1)「理論理解と技能習得に関する科目」、(2)「現場経験と省察に関する科目」、(3)「保育心理士」資格と宗教的情操に関する科目」に分けている。(1)に関しては保育学・教育学・教科教育学の教員を配置し、各教員が専門を発揮し、学生が専門知識を得られるように企図している。(2)は主に実習科目であるが、幼稚園、保育園、施設等の現場経験のある教員を配し、教員の経験知を学生に還元できるようにする。(3)に関しては仏教教育・真宗教育の専門教員を配置し、幼児の心に寄り添える教員養成にふさわしい組織づくりを行った。以上のように理論研究教員と実践経験豊富な教員とが、バランスのとれた教員組織を構築する。

## 2. 教員組織の年齢構成

教育学部の年齢構成に関して、開設となる 2018 年 4 月 1 日時点の初等教育コースでは 40～49 歳が 3 名、50～59 歳が 6 名、60～69 歳が 1 名である。幼児教育コースでは 30～39 歳が 1 名、40～49 歳が 2 名、50～59 歳が 4 名、60～69 歳が 2 名である。ベテランから若手まで幅広く教員を配置し、特定の年齢層に偏らないよう計画している。また教育研究については、全教員が十全に専門領域を発揮できるようにし、また学内管理業務に関しても、すべての教員が等しく業務を分担するように配慮する。

また完成年度の 2022 年 3 月 31 日時点における年齢構成は、初等教育コースでは 40～49 歳が 2 名、50～59 歳が 3 名、60～69 歳が 5 名である。幼児教育コースでは 40～49 歳が 2 名、50～59 歳が 5 名、60～69 歳が 2 名である。また、初等教育コースと幼児教育コースにそれぞれ 1 名ずつ、計 2 名の教員が完成年度までに定年に達するが、いずれも特別契約教員として完成年度まで採用する予定である。【資料 1 大谷大学特別契約教員規程】

### 3. 専任教員の教育研究体制の構築

教育学部ではこれまでの文学部教育・心理学科の実績を踏まえて、教育研究体制の構築につとめる。教育面では講義・演習やゼミ指導を通して、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士になる学生を適切に指導できるように、教材開発やFD活動を積極的に推進する。また教員間での連絡も密にし、教育理論の研究者と教育実践の研究者とが、お互いのもつ長所をいかし学生指導に役立てる。研究面では、教育面を支えるべく各教員が専門研究を行うような体制を築く。積極的に学会発表や論文執筆を行うため、各教員が所属する学会での活動を一層奨励する。また「大谷大学教育・心理学会」と「大谷大学国語教育学会」の2学内学会があり、それぞれ『人間形成論研究』『大谷大学国語教育研究』をすでに発刊しているが、教員の研究発表の場として、これらの学会も活用していく。また研究に関して、科学研究費への応募や、学内の共同研究への応募などを積極的に推進し、学術水準の向上につとめる。

### 4. 完成年度後の教員組織

教育学部教育学科においては完成年度までに2名の専任教員が定年に達することから、完成年度後公募によって新任教員を採用する。採用にあたっては本学の人事規則にもとづき、研究面・教育面の両方において優れた業績を有する者を採用する。

また今後の教員採用に関しては、研究論文において質・量ともに優れた業績を有し、教育歴を有する者のなかから、本学の仏教理念を理解する者を採用するものとする。完成年度後も、本学教員の学術研究水準・教育指導水準が決して低下することのないように、厳しく採用基準を運用する。また学内における昇格人事も同様の方針のもとに運用する。さらに研究者・学校等現場経験者、ベテラン・若手のバランスが均等になるように配慮する。以上のような採用方針によって完成年後も、学部発足時の教育研究体制が持続できるような体制を構築する。

## ⑥教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### 1. 教育方法

#### (1) 授業の方法

教育学部における授業の方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態をとるとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態をとることとし、また、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式や

実践形式による授業形態をとることとする。

## **(2) 学生数の設定**

④教育課程の編成方針の考え方及び特色で示した科目区分に応じて、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、コースごとに授業の内容に応じた学生数を設定している。初等教育コースでは、講義形式は 50～60 人、演習形式は 20 人以下、実習形式及び実践形式は 30 人程度とする。幼児教育コースでは、講義形式は 80 人、演習形式は、30 人～40 人、実習形式および実践形式は 40 人程度とする。なお、教育目的を効果的かつ確実なものとするため、必要に応じて授業補助員を配置するなどの対応を行うこととする。

## **(3) 配当年次**

配当年次は、基礎から基幹、専門領域へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用という授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の 4 年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

## **(4) 履修科目の登録上限**

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、キャップ制を導入し、1つの学年の卒業要件単位となる科目の履修上限を 48 単位とするとともに、1セメスタあたりの卒業要件科目の履修単位数の上限を 24 単位とする。

## **(5) 厳格なる成績評価**

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これにもとづき厳格な評価を行う。客観的な評価基準を適用し、厳格な成績評価を実現する方法として、GPA 制度を導入する。

## **2. 履修指導方法**

教育学部における履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性或能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では、学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部

教育においては、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人物像に対応した典型的な履修モデルを提示する。

## 【資料2 履修モデル】

### 3. 卒業要件

教育学部における卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとする。

共通基礎科目については、両コースとも必修科目18単位以上、学科専門科目については、初等教育コースが必修科目24単位、幼児教育コースが必修科目57単位を含む86単位以上を修得することとしている。

## ⑦ 施設、設備等の整備計画

教育学部の設置については、大学全体の入学定員・収容定員の変更を行わず、既存の文学部教育・心理学科を発展的に改組することを計画の骨子としている。そのため教育学部にかかる校地、運動場及び校舎等の施設については、既存学部・学科において整備している教室・演習室、教員研究室、研究室（自習室）等を利用し、既設の学部・学科及び併設の大谷大学短期大学部の教育課程・環境に支障をきたすことなく共同で使用する予定である。

### ア 校地、運動場の整備計画

本学の本部キャンパスの校地は44,009.67㎡で、京都市内の北部、京都市営地下鉄北大路駅徒歩3分の交通至便な位置に立地している。教育研究活動はすべて本部キャンパスにおいて実施している。

運動場、体育施設やセミナーハウスがある湖西キャンパスは滋賀県大津市に所在し、公共交通機関を用いて約50分の距離にある。本部キャンパスと湖西キャンパスを結ぶスクールバスを運行しており、主に課外活動やセミナーハウスでゼミ合宿を行う学生たちが利用している。運動場は湖西キャンパスにグラウンドとサブグラウンドを有し30,123.05㎡となっている。また本部キャンパスには3階建て延べ床面積4,857.06㎡の体育館がある。

本部キャンパス内には、キャンパス各所に休息所とベンチが設けてあり、空き時間を利用して、学生同士、教員と学生が休息し対話をするスペースとなっている。また後述する新教室棟「慶園館（きょうもんかん）」には、学生達が休息のために自由に利用できるカフェを常設した学生ロビーのほか、サブゼミやミーティングに自由に利用できるアクティ



ブ・ラーニングスペースを各階に配置し、目的に応じて利用できる開放的なスペースを確保している。また、既存建物の講堂棟には学内食堂やコンビニエンスストアを整備している。

## イ 校舎等施設の整備計画

本部キャンパスには、1号館、2号館、4号館、5号館、尋源館（じんげんかん）、博綜館（はくそうかん）、響流館（こうるかん）、および2018年3月末に最終竣工をむかえる新教室棟慶聞館の8つの校舎を設置し、校舎面積は全体で55,209.17㎡となっている。Ⅱ期工事が完了し一部使用が始まっている慶聞館の教室数を含め2017年4月現在の教室数は119室、大学・大学院・短期大学で利用している教室稼働率は平均35～36%となっている。**【資料3 2017年度教室稼働率】**なお、慶聞館の第Ⅲ期工事完了後の最終竣工時には、20室の教室が増設される予定である。また、改組により設置する教育学部教育学科（初等教育コース、幼児教育コース）の授業は、現行文学部教育・心理学科で利用する教室・実習室等を学年進行により入れ替えて利用していくこととなり、支障なく授業が運営される予定である。**【資料4 第3期工事計画概要、工程表】**

現在、本学「ランドデザイン」に示される5つの基本方針にもとづいた長期キャンパス整備計画の一環として、新教室棟の建替を含めた本部キャンパスの総合整備に着手している。新教室棟である「慶聞館」は、大学に求められる多様な学びを実現するための諸機能を配置して建築が進められている。

1階中央部には、多くの学生たちが集う広大な「学生ロビー」を設置し、その周囲には学習サポートセンター（語学学習支援室、学習支援室、文藝塾）、学生支援部事務室（学生支援課、キャリアセンター、教務課）を有機的に配置している。この学生ロビーを学習活動の起点として、2階～5階の各教室、各階に3ヶ所ずつ設けられたアクティブ・ラーニングスペースである「マルチスペース（休息・グループワークやミーティングに利用できる開放的なスペース）」や、4・5階の教員の個人研究室にスムーズにアクセスできるように配置されている。また慶聞館4階と総合研究室、図書館・博物館を配置する響流館をブリッジにより連結することで、教育・研究活動の接続性を向上させる予定である。こうした機能と配置により、学生たちの主体的な学びが可能となる**【資料5 慶聞館パンフレット（抜粋）】**。

各教室は、大・中規模の教室とともに、ゼミやグループワークに対応できる小規模教室を多く配置し、さらに自由な学習空間の創出が可能となる高機能教室も設け、アクティブ・ラーニングの取組にも対応が可能となっている。また教室には多様なプレゼンテーションが実現できるように全教室にプロジェクターを整備し、PCをはじめスマートフォンやタブレットなど様々なデバイスが接続できる環境を整備している。

以上のように新教室棟「慶聞館」の機能や構造は、教育学部のカリキュラムにおいて重視されるゼミやミーティング、グループ活動に対応し、学生が主体的に学ぶことが出来る新しい環境づくりに対応した学習環境の創出をめざしている。

## ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館は、教育学部、文学部、社会学部及び大谷大学短期大学部との共用施設である。3,301 m<sup>2</sup>の閲覧室と 3,058 m<sup>2</sup>の書庫を有し、閲覧席は、図書館に 588 席、接続する総合研究室に 465 席ある。館内には、多目的利用が可能な各種閲覧室、検索端末、AV コーナー、自動貸出機、マイクロフィルムリーダー、コピー室など必要な機器・設備を備え、また障がいのある利用者の利用に対応できるよう各種バリアフリー機器を整備している。

利用については、開館時間は授業期平日 9:00~20:30、授業期土曜日 10:00~17:30、長期休暇期間は時間短縮開館によって対応し、最終授業終了後の学修にも対応可能な環境を整備している。更に卒業論文提出前には特別開館日を設けるなど、学生の学修スタイルに合わせた利用環境を確保している。また、障がい者等配慮が必要な利用者の入館利用には必要かつ適切なサポートを行っている。

図書館は、本学及び本学短期大学部に設置する専門分野の図書資料を中心に、網羅的な蔵書構築を推進している。専門分野ごとの収書方針を立てるとともに、シラバス記載の参考図書を整備するなど、教育研究に不足のない収書に配慮している。2017 年 3 月現在、図書資料の収蔵数は 846,796 冊、学術雑誌約 6,500 誌であり、その他、各種データベース・電子書籍、電子ジャーナル、視聴覚資料など各種資料を整備している。一部の図書は、各室の設置目的に合わせて総合研究室、短期大学部研究室、人権センター、教職支援センターにも配置されており、利用者の利便を図っている。蔵書には、教育学関係図書約 7 万冊、他大学・専門研究機関の学術雑誌多数を含む。

各種収蔵資料は、Web による検索システム「大谷大学図書館情報検索システム」の OPAC (Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録) による検索が可能である。OPAC は学内外の Web 接続 PC より 24 時間検索が可能で、学内のみならず自宅等における研究・学習にも資するものである。なお、OPAC からは Web を介して国立情報学研究所の目録 DB や他大学・研究機関や国立国会図書館など各種図書館の情報検索システムにもアクセスすることができ、各種学術情報の取得も容易である。「大谷大学図書館情報検索システム」は図書館情報管理システムの一機能であり、図書の貸出/返却をはじめとする図書館各種業務が一元的に可能となっており、利用者各人は Web 上にポータルサイトをもつことができる。古典籍資料の一部は、大学 HP「古典籍データベース (試行版)」にデータを蓄積し公開中であるが、大半の資料は冊子目録により検索可能である。また、電子ジャーナル、各種データベースなどのデジタル・コンテンツについては、図書館以外の学内施設 (情報処理教室、各研究室、教員個人研究室等) からアクセス可能な利用環境を整備するなど、利用の便が図られている。

学外機関との協力体制については、私立大学図書館協会や日本図書館協会に加盟し、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに参加しているほか、国内外の教育研究機関と ILL (Interlibrary Loan 図書館間相互貸借) を実施しており、大学図書館はじめ各種研究機関との間において、資料閲覧、現物貸借、文献複写を実施している。他機関所蔵資料の利用希望に際し、本学構成員は OPAC のポータルサイトを利用して Web 上で各種申請が可能である。

特記事項として、学生による選書が予算化されており、学生が選書に積極的に関わる仕

組みを設けている。学生が図書（館）に親しみ、興味をもって学修に取り組める体制を整えている。また、意見箱「館長直々」により、学生の意見を聴取するとともに、提出された意見に対して必ず掲示回答している。さらに、総合研究室と合同で「利用者との意見交換会」を開催するなど、施設の運営に学生利用者の声が反映される仕組みを備えており、利用ニーズの変化に対応している。

## ⑧入学者選抜の概要

### 1. 教育学部のアドミッションポリシー（AP）

本学の建学の理念にもとづく「三モットー」を体現し、高い教職意識と責任感をもち、社会的常識やコミュニケーション能力・対人関係能力を備え、子どもたちの声にじっくりと耳を傾けることのできる慈育の精神に富んだ高度専門職業人を育成するために、以下のアドミッションポリシーを設定する。

AP1	〔知識・理解〕	高等学校の国語・数学等を着実に習得し、読解力・表現力・推理力等の相当の学力を有する人
AP2	〔関心・意欲〕	教育・保育問題に関心を持ち、教育・保育に関する自分の意見を確立できる人
AP3	〔技能・表現〕	乳幼児・児童と積極的にかかわることができる、コミュニケーション能力を有する人
AP4	〔態度〕	人間関係の重要性について認識し、よりよい人間関係を構築しようとする教育愛にあふれる人

### 2. 入学者選抜の種類

本学部の入学者選抜は、学科ごとにAO入試、推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試を実施する。

なお、出願資格については、本学部で学ぶことに強い意欲をもち、

- 1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、又は卒業見込みの者。
- 2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、又は修了見込みの者。
- 3) 学校教育法施行規則第150条により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、又はこれに該当する見込みの者。

のいずれかに該当する者としている。

### (1) AO入試、自己推薦入試

AO入試は、主にAP1～4をトータル的に重視する専願制として実施する。選抜にあたっては、多面的・総合的な選抜を行うことを企図し、以下の通り選考する。なお、入学定員の関係から幼児教育コースへの入学者についてのみ実施する。

- ア. セミナーを開催し、セミナー終了後、受験希望者に対して出願書類（志願票・エントリーシート・セミナー受講証等）を配付する。
- イ. 2日間に及ぶセミナーでは、学科ごとにグループワークによる課題に取り組んでもらい、小論文を作成し評価対象とする。
- ウ. 審査は書類審査（セミナーでの評価及び出願時に提出された書類により審査）及び面接（面接 [20分程度]）を行う。
- エ. 判定は上記ア. からウ. の内容により総合的に合否判定を行う。

自己推薦入試の選考はAP2・4を重視する専願制として実施し、以下の通り選考する。

- ア. 自己推薦書（所定書式1,200字程度）と面接によって判定する。
  - \*自己推薦書は、志望理由や入学後の学習計画をまとめるとともに、学科が指定する自己推薦項目（ボランティア経験や英検など）について、高校段階に取り組んできた内容を明記する
- イ. 面接時間は、15分程度を予定。
- ウ. 配点は、自己推薦書100点満点、面接100点満点の合計200点満点。

### (2) 推薦入試

併願制である公募制推薦入試の選考は、B方式（英語・国語の2教科型）ではAP1を、A方式（小論文型）ではAP2を重視し、以下の通り選考する。

- ア. 出身学校における成績（出身学校調査書の全体の評定平均値を10倍して50点満点に換算）と、本学で行う選考試験の成績（教科型・小論文型ともに200点満点）との総合評価による（合計250点満点）。

指定校制推薦入試の選考については、主にAP2・3を重視し、以下の通り選考する。

- ア. 本学との間で教育目標をめぐって相互理解を深め緊密な信頼関係が維持できると確かめられた高等学校の生徒で、学科が定める推薦条件の全ての項目に合致すると学校長が推薦する者を出願条件に加える。
- イ. 事前に送付する課題図書を精読したうえで所定の課題について論述する小論文と提出書類・面接評価との総合評価による。

### (3) 一般入試、大学入試センター試験利用入試

一般入試においては AP1 を重視し、1 期、2 期、3 期と 3 回に分けて実施する。試験科目は、国語、英語と地歴・公民、数学の試験を課す。

大学入試センター試験利用入試においては AP1 を重視し、前期、中期、後期の 3 回に分けて実施する。国語、外国語、地歴、公民、数学の 4 科目を試験科目とし、大学入試セン

ター試験の結果を利用して判定し、本学独自の試験は課さない。

なお、試験種類別の入学者数は、おおむね以下のとおりとする予定である。

・入学定員：130名

AO入学：3名（幼児教育コースのみ）

自己推薦：17名

推薦入学：55名（公募制A 10人、B 20人、指定校 25名）

一般入試：39名（1期3教科18人・2教科12人・2期4人・3期5人）

大学入試センター試験利用入試：16名（前期3教科4人、2教科4人・  
中期4人・後期4人）

### <教育学部の学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）と入学制度>

【教育目標(人物品成上の目的)】						
教育学部は、建学の理念にもとづく「三 motto」を体現し、高い教職意識と責任感を持ち、社会的常識やコミュニケーション能力・対人関係能力を備え、子どもたちの声にじっくりと耳を傾けることのできる慈育の精神に富んだ、高度専門職業人を育成する。						
【学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー AP)と入学制度】						
教育目標を達成するために、教育学部で求めているのは、次のような人である。 (AP1) 高等学校の国語・数学等を着実に習得し、読解力・表現力・推理力等の相当の学力を有する人〔知識・理解〕 (AP2) 教育・保育問題に関心を持ち、教育・保育に関する自分の意見を確立できる人〔関心・意欲〕 (AP3) 乳幼児・児童と積極的にかかわることができる、コミュニケーション能力を有する人〔技能・表現〕 (AP4) 人間関係の重要性について認識し、よりよい人間関係を構築しようとする教育愛にあふれる人〔態度〕						
入学制度	選考方法	(AP1)	(AP2)	(AP3)	(AP4)	各入学制度のねらい
アドミッション・オフィス入試 〔セミナー型〕 * 幼児教育コースのみ	エントリーシート	○	◎			本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった学生を、学科の求める人物像との適合性を重視して受け入れる。(小論文、グループディスカッション(該当学科のみ)、グループワーク(該当学科のみ)、プレゼンテーション、面接等による試験。)
	小論文	◎	◎			
	グループディスカッション、グループワーク			◎	◎	
	プレゼンテーション					
	面接		○	◎	○	
自己推薦入試	自己推薦書		◎			本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった学生を、自己推薦に基づいて広く受け入れる。
	面接		○	○	◎	
公募制推薦入試 A方式(小論文型)	小論文	○	◎			本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、出身学校長の推薦に基づいて広く受け入れる。(小論文型：小論文による試験。2教科型：マークシート方式の教科試験。)
公募制推薦入試 B方式(2教科型)	教科	◎				
指定校制推薦入学制度	小論文	○	◎			本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、本学から依頼した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦に基づいて受け入れる。
	面接			◎	○	
一般入試〔第1期〕 〔第2期〕〔第3期〕	教科	◎				高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識をもつ学生を受け入れる。(一般入試〔第1期〕〔第2期〕〔第3期〕：マークシート方式の教科試験。一般入試〔大学入試センター試験利用入試〕前期・中期・後期：大学入試センター試験を利用したマークシート方式の教科試験。)
一般入試 〔大学入試センター試験利用入試〕前期・中期・後期	教科					

## ⑨ 取得可能な資格

教育学部教育学科において取得できる主な資格は次のとおりである。

### ◆小学校教諭一種

- ・ 国家資格
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

### ◆大谷派教師資格

- ・ 認定資格（真宗大谷派）
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、大谷派教師資格関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

### ◆司書教諭

- ・ 国家資格
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、司書教諭関連科目の履修および教育職員免許を同時に取得することが必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

### ◆幼稚園教諭一種

- ・ 国家資格
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

### ◆保育士

- ・ 国家資格
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、保育士関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

### ◆保育心理士

- ・ 認定資格（公益社団法人大谷保育協会）
- ・ 資格取得可能
- ・ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、保育心理士関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

## ⑩ 実習の具体的計画

教育学部教育学科において取得できる小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の免許状取得に関する教育実習・保育実習・施設実習の具体的な計画は、以下のとおりである。

### ア 実習先の確保の状況

各免許種における教育実習の受け入れ先については、下記に示すとおりである。

○京都市教育委員会

- ・小学校 166 校 幼稚園 16 園
- ・京都府・市内の私立幼稚園

京都府内 1 園（附属幼稚園）、京都市内 16 園

○保育所・認定こども園（保育実習Ⅰ・Ⅱ）54 園

○施設実習校（保育実習Ⅰ）32 施設

○施設実習校（保育実習Ⅲ）2 施設

○実習施設（保育心理士実習）幼稚園 10、保育所 10、認定こども園 1

大学から上記の各施設に対し、すでに実習生の受け入れ依頼を行い、承諾を得ている（【資料 6】に添付）。

#### 【資料 6 実習施設一覧】

### イ 実習先との契約内容

#### <小学校>

小学校実習の受け入れに関しては、京都市立学校については「京都市教員養成連絡協議会」が実習生調整を行っている。「京都市教員養成連絡協議会」は「京都市教育委員会」と「京都地区大学教職課程協議会」と「京都市立学校校長会」の 3 者から成り立っているが、本学は「京都地区大学教職課程協議会」に加盟し、実習生の受け入れ依頼を行っている。

#### <幼稚園>

幼稚園実習に関しては、本学附属の大谷幼稚園および公益社団法人大谷保育協会所属園、京都市教育委員会及び近隣の幼稚園、認定こども園（1 号認定部分）への実習を中心に行う。大学から各園へ実習生の受け入れ依頼を行うが、公立幼稚園については、各自治体の受け入れ方針にしたがう。

#### <保育所>

保育実習（保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ）に関しては、公益社団法人大谷保

育協会所属園、近隣の保育所（公立、私立を含む）や認定こども園（2号および3号認定部分）への実習を中心に行う。大学から各園へ実習生の受け入れ依頼を行っている。また保育心理士実習に関しては、（公）大谷保育協会京都支部所属の園にて行う。

#### ＜その他の児童福祉施設＞

保育実習（保育実習Ⅰ（施設）および保育実習Ⅲ）に関しては、近隣の施設での実習を中心に行う。

小学校・幼稚園ともに本学の実習方針を厳格に運用し、充実した実習が行えるように推進する。また実習校（園）からの要望を実習に反映できるように、協力体制を築く。

### ウ 実習水準の確保

教育実習・保育実習にあたっては、事前指導を綿密に行い、実習の心構えはもちろん、授業・保育方法や生徒・乳幼児理解に関して十全な理解を得ていることを前提としている。事前指導は、実習指導担当教員が行うが、実習中の指導に関しては各学生の指導教員があたり、学科全体で一人ひとりの実習をサポートできる体制を作る。教育実習担当教員・保育実習担当教員は、いずれも現場経験や現場に関する多くの知見を有する教員を配する。また本学教職支援センターでは、教職アドバイザー等を常駐させ、学生が相談できるような体制をとる。実習前には判定会議を行い、一人ひとりの学生が教育実習・保育実習を履修する資格（最低修得単位の履修、教育実習・保育実習事前指導の受講の有無など）があるかどうかを審議する。また実習中は主に指導教員が巡回指導を行い、実習校・園（施設）と緊密な連携をとる。保育心理士実習についても、他の実習と同様の体制で指導する。

### エ 実習先との連携体制

小学校での実習については、実習前年度実施の京都市教育委員会説明会に実習予定学生が参加したうえで、所定の期間中に実習希望校に学生が内諾交渉を実施する。内諾を受けたうえで、実習参加要件を満たした学生については、実習年度に大学より依頼状を送付し承諾を得る。また、実習生は実習校との事前オリエンテーションに参加し、実習に臨む。実習期間初旬に実習生の指導教員より電話もしくは訪問で挨拶を行い、実習期間中も学生と連絡を取りながら、実習参観におもむき、中間指導を実施する。実習参観時は指導教員等からも実習状況を確認し、適宜指導をする。

幼稚園・保育所・児童福祉施設での実習については、基本的に学内で実習園を配当し、実習前年度に大学より依頼状を送付し、内諾を得る。実習年度に大学より依頼状を送付し承諾を得る。また、実習生は実習園との事前オリエンテーションに参加し、実習に臨む。実習期間初旬に実習生の指導教員より電話もしくは訪問で挨拶を行い、実習期間中も学生と連絡を取りながら、実習参観におもむき、中間指導を実施する。実習参観時は指導教員等からも実習状況を確認し、適宜指導をする。



いずれの実習においても実習後、必要に応じて実習生の状況を確認し、訪問を行うこともある。

## オ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

### ●感染予防対策

保育実習参加者については全員に O-157・赤痢菌・サルモネラ菌・パラチフス・腸チフスの検査を課し、実習先の求めに応じて追加検査も実施する。幼稚園実習・小学校実習においては、提出の用を求められた場合に該当学生に同様の検査をさせる。

また、平成 19 年度文部科学省からの通知にもとづき教育実習等の実習における麻疹免疫の有無の確認については、平成 29 年 2 月京都府医師会感染症対策委員会からの「看護系、介護系、医療系、教育系等大学あるいは専門学校の学生実習に際してのワクチン接種に係る提言」に準拠し、①過去の罹患歴、②予防接種の 2 回接種、③抗体検査で陽性のいずれかが証明できた者について実習参加を認める。

### ●保険等の加入

本学在学生共通で公益財団法人日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）ならびに「学研災付帯賠償責任保険」（学研賠）に加入する。当該保険において学研災において正課中、学校行事中、学校施設外の課外活動中の急激かつ偶然な外来の事故による身体の傷害を被った場合、学研賠において正課、学校行事、課外活動（実習を含む）およびその往復中における他人の身体に障害を負わせ、又は他人の財物を破損させたことに起因して被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合に保険金支払い対象となる。

### ●実習の要件

#### <小学校>

- ・教育実習受講資格の合格基準

教育実習の履修にあたっては、教育実習前に開催される判定会議で合格することが求められる。

合格基準は①教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める全科目と単位数（8 単位）を履修済みであること。②「教職に関する科目」のうち、「教育原論（小）」をはじめ、36 単位数を修得済みであること。③「教科に関する科目」のうち、「教科（国語）」をはじめ、18 単位数を修得済みであること。④「教科又は教職に関する科目」のうち、10 単位数以上を修得済みであること。⑤最終学年において卒業見込みであり、かつ免許取得見込みであること。⑥教職に就く強い熱意をもち、教員採用試験を受験すること。以上が教育実習履修の条件である。

#### <幼稚園>

- ・教育実習受講資格の合格基準

教育実習の履修にあたっては、教育実習前に開催される判定会議で合格することが求め

られる。

合格基準は、①教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める全科目と単位数（9 単位）を履修済みであること。②「教職に関する科目」のうち、「教育原論（幼）」をはじめ、20 単位を修得済みであること。③「教科に関する科目」のうち、「教科（国語）」をはじめ、10 単位を修得済みであること。④「教科又は教職に関する科目」のうち、12 単位以上を修得済みであること。⑤第 3 学年での受講にあたっては進級できており、最終学年において卒業見込みであり、かつ免許取得見込みであること。⑥教職に就く強い熱意をもってのこと。以上が教育実習履修の条件である。

### ＜保育所・施設＞

・保育実習受講資格の合格基準

保育実習Ⅰ（保育所）については、実習開始までに、保育士養成課程の第 1・2 学年に配当された全科目について修得見込みであること。保育実習Ⅰ（施設）については保育士養成課程の第 3 学年前期までに配当された全科目について修得見込みがあること。

保育実習Ⅱ・Ⅲ（いずれか選択）は、実習開始までに、保育士養成課程の第 1・2 学年配当の全科目について履修済みで、第 3 学年前期までに配当された全科目について修得見込みがあること。以上が保育実習履修の条件である。また保育心理士実習に関しては、上記の保育実習Ⅰと保育実習Ⅱ・Ⅲ（いずれか選択）の修得見込みがあるもの。

## カ 事前・事後における指導計画

### ＜小学校＞

小学校における教育実習の実施に向けて、今日の学校の状況、小学校教員に求められる資質について理解し、授業観察や児童の観察の視点、学習指導案の作成及び授業の実施上の留意点などについて理解する。実習校で知り得た情報・個人情報等に関わる守秘義務についても理解し、意義ある教育実習が実施できるよう基本となる事項について習得する。

今日の学校の状況、小学校教員に求められている資質、児童への関わり方、指導案作成及び授業実施上の留意事項、学校で知り得た個人情報等に関わる守秘義務、教員の服務に関する基本事項等について理解する。また、服装や言葉遣い、実習記録のとり方、担当教員からの指導の受け方など、一般的な心構えについても理解を図る。

### 事前指導

（1）教育実習受講許可判定会議前の事前指導：委員等による全体指導

- a 講義 … 「教育実習の意義（教師教育、目標、内容・方法）」、「来年度教育実習受講にあたっての心構えと準備」、「学校教育理解～組織、経営、生徒指導」
- b 演習 … マナー講習等、教職に就く意志の確認

（2）教育実習許可発表後の事前指導

現場経験の豊かな講師と本学教員による、教育実習受講にあたっての全体的指導（2時間）、実習にあたっての心構え・諸注意、授業の進め方等下記内容に関する講義・演習

### 事後指導

教育実習反省会を行う。実習生全員が実習の様態を発表、意見交換を行う。特に実習中に学生が疑問に感じたことや困ったことなどについて、ディスカッションを行うことにより、担当教員の指導のもと、教員のあり方について考える。

### <幼稚園>

幼稚園における教育実習の実施に向けて、幼稚園教育の状況、幼稚園の教員に求められる資質について理解し、保育の観察や幼児の観察の視点、指導案の作成及び保育実施上の留意点などについて理解する。実習園で知り得た情報・個人情報等に関わる守秘義務についても理解し、意義ある教育実習が実施できるよう基本となる事項について習得する。

幼稚園の現場で教育実習を行うにあたり、次に示す理解しておくべき基本事項及び留意点について学ぶ。今日の幼稚園教育の状況、教員に求められている資質、幼児への関わり方、指導案作成及び保育実施上の留意事項、幼稚園で知り得た個人情報等に関わる守秘義務、教員の服務に関する基本事項等について理解する。また、服装や言葉遣い、実習記録のとり方、担当教員からの指導の受け方など、一般的な心構えについても理解を図る。

### 事前指導

(1) 教育実習受講許可判定会議前の事前指導：委員等による全体指導

- a 講義 … 「教育実習の意義（教師教育、目標、内容・方法）」、「来年度教育実習受講にあたっての心構えと準備」、「幼稚園教育理解～組織、経営、子どもへの指導・援助」
- b 演習 … マナー講習等、教職に就く意志の確認

(2) 教育実習許可発表後の事前指導

現場経験の豊かな講師と本学教員による、教育実習受講にあたっての全体的指導（2時間）、実習にあたっての心構え・諸注意、保育の進め方等下記内容に関する講義・演習

### 事後指導

教育実習反省会を行う。実習中に学生が疑問に感じたことや困ったことなどについてディスカッションを行うことにより、担当教員のもと、教員のあり方について考え、自らの課題に気づき、次の実習や現場での実践、卒業までに身につけることへの目標設定を行う。

### <保育所・施設>

保育所や施設における実習の事前事後の指導については、主に「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび保育心理士実習指導」という保育士資格課程科目において行うほか、保育実習学内オリエンテーション、実習直前・直後の場を通して実施する。

## 事前指導

### (1) 「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび保育心理士実習」全体授業

講義および演習… 保育実習の意義・目的の理解、自らの課題の明確化、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容、保育の質向上と自己評価

### (2) 「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび保育心理士実習」直前指導

- ・実習園・施設でのオリエンテーションを踏まえ、自らの実習課題を明確にし、実習の計画書作成を行う
- ・巡回指導担当教員と面談し、情報共有を行うとともに、既習の各教科や現場経験等での学びとの連続性を確認する。

## 事後指導

保育実習反省会を「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび保育心理士実習指導」の各授業において行う。実習中に学生が感じたこと、学んだこと、現場で指導を受けたことなどについてディスカッションを行うことにより、保育者としてのあり方について考え、自らの課題に気づき、次の実習や現場での実践へ向けて目標設定を行う。保育実習Ⅰ、Ⅱ（もしくはⅢ）の後、多くの学生が教育実習に取り組むため、保育実習Ⅱ（もしくはⅢ）のふりかえりでは、幼児教育を含む保育者としての視点を重視し、連続性をもって履修できるよう指導する。保育心理士実習指導においても、上記の内容を行う。

## キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習中は本学部教員が実習校（園）を巡回指導し、適切に実習が行われているかを確認し、指導を行う。遠隔地が実習校（園）の場合は、電話での実習状況の確認を必ず行う。

## ク 実習施設における指導者の配置計画

学校教育法第37条の条件を満たしている実習先に教育実習生を送る。実習先には本学の教員は配置せず、教育実習生指導教諭の配置を依頼する。本学との連携に関しては、教員・教職支援センターが、実習先の教育実習担当責任者と事前・実習中・事後の連絡を密に取り合う体制とする。

## ケ 成績評価体制及び単位認定方法

実習校（園）の評定に加えて、事後レポート、実習日誌の内容を総合的に勘案し、資格取得課程委員会教職課程部会初等教育部門にて総合的に評価、決定する。

## コ その他特記事項

### ●実習に関わる学内組織・学外組織

#### <学内組織>

小学校教諭・幼稚園教諭養成に関しては、本学「資格取得課程委員会」傘下の「教職課程部会 初等教育部門」が担当する。当部会は、教職関連教員 20 名ほどで構成され、教育実習の実施計画が策定される。学生が教育実習を履修する年度の前年度より受講登録を行い、実習校との協議の上配当を行う。また実習に関わる学生指導を推進する。

#### <学外組織>

「京都市教員養成連絡協議会」に所属している。本協議会は、「京都市教育委員会」と「京都地区大学教職課程協議会」と「京都市立学校校長会」の三者から成り立っている。座長は京都市教育委員会京都市総合教育センター教員養成支援室長、副座長は京都地区大学教職課程協議会が推薦する者が 1 名と教育委員会が推薦する者が 1 名、委員は京都地区大学教職課程協議会が推薦する大学関係者が若干名と京都市教育委員会が推薦する教育委員会職員及び京都市立学校の校長が若干名である。

### ●実習時期と時間数

#### 実習時期<保育実習及び教育実習の時期>

- 小学校：第 4 学年次 5 月～12 月
- 幼稚園：前期実習 第 3 学年次 9 月～12 月  
後期実習 第 4 学年次 5 月～12 月
- 保育所：保育実習Ⅰ 第 2 学年次 2 月～3 月
- 保育所：保育実習Ⅱ 第 3 学年次 8 月～9 月
- 施設：保育実習Ⅰ 第 3 学年次 8 月
- 施設：保育実習Ⅲ 第 3 学年次 8 月～9 月
- 保育所：保育心理士実習 第 4 学年 10 月～12 月

#### 実習期間・総時間数<保育実習及び教育実習の時期>

- 小学校 4 週間（120 時間～180 時間）、いずれも実習校の実施計画にもとづく。
- 小学校 2 週間（60 時間～90 時間）、いずれも実習校の実施計画にもとづく。
- 幼稚園 4 週間（120 時間～180 時間）、いずれも実習園の実施計画にもとづく。
- 幼稚園 2 週間（60 時間～90 時間）、いずれも実習園の実施計画にもとづく。

- 保育所（保育実習Ⅰ）10 日以上（80 時間）
- 保育所（保育実習Ⅱ）10 日以上（80 時間）
- 施設（保育実習Ⅰ）10 日以上（80 時間）
- 施設（保育実習Ⅲ）10 日以上（80 時間）
- 保育所（保育心理士実習）5 日以上（30 時間）

## ●実習の目標と学修内容

### <小学校>

#### 授業の到達目標

小学校において、教育活動を実際にも実習し、指導案を立てた学習指導、児童理解の方法、教員の仕事などについて理解し、教員として適切な行動が取れるよう体験を通して基本を習得する。

小学校の教育現場において、児童の様子にふれ、児童理解の必要性を知り、授業参観・観察及び指導案を立てた授業の実習などを行う。授業のみならず、給食時間、休憩時間の児童の活動、課外の活動など放課後の活動状況についても具体的に実習し、教員の仕事や学校教育活動の実際について基本を理解し習得する。

### <幼稚園>

#### 授業の到達目標

幼稚園において、教育（保育）活動を実際にも実習し、指導案を立てて行う保育、幼児の行動、幼稚園の1日の教育（保育）活動、教員の仕事などについて理解し、教員として適切な行動が取れるよう体験を通して基本を習得する。

幼稚園の教育現場において、幼児期の子どもの活動や特性にふれ、保育参観・観察及び指導案を立てた保育の実習を行う。幼稚園の1日の教育活動に関わり、幼稚園教育の各領域における保育活動を通して行われる教員の援助・指導の工夫、配慮、幼稚園全体の協力体制などについて実習を通して理解する。3年次後期に2週間、4年次前期に2週間行うことで、前半のふりかえり、改善や準備を行い、後半の実習へと学びを深める。

### <保育所・施設>

保育実習の目的は、保育士養成課程で習得した知識・技能と子どもに対する理解および人間の生涯発達に関する理解を基礎に、保育現場におけるこれらの総合的な実践能力の滋養と現代社会に生きる子どもをめぐる諸問題と、地域における子育て支援についての深い洞察を得ることである。

#### 授業の到達目標（保育実習Ⅰ）

- a. 保育所、児童福祉士施設等の役割や機能を具体的に理解する
- b. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
- c. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ
- d. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する
- e. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ

#### 授業の到達目標（保育実習Ⅱ）

- a. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める
- b. 子どもの観察や関わりの方角を明確にすることを通して保育の理解を深める
- c. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ
- d. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深

める

- e. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
- f. 保育士としての自己の課題を明確化する

#### 授業の到達目標（保育実習Ⅲ）

- a. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める
- b. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う
- c. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
- d. 保育士としての自己の課題を明確化する

#### 授業の到達目標（保育心理士実習）

- a. 保育所における個別の支援について具体的な実践を通して理解を深める
- b. つまづきをもった子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育心理士の役割や専門性への理解を深める
- c. 既習の教科や保育実習Ⅰと保育実習Ⅱ（あるいは保育実習Ⅲ）の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ
- d. 個別の支援としての保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める
- e. 保育心理士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
- f. 保育心理士としての高い専門性と自己の課題を明確化する

## ⑪ 管理運営

教学面における管理運営体制、特に教授会の役割は次のとおりとなっている。

大谷大学学則第7条及び大谷大学教授会規程にもとづき、

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 教育課程の編成に関する事項
- (4) 教員の教育研究業績の審査等に関する事項

の各事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べることとなっている。

また、学長、学監、副学長及び部科長等（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べることとなっている。

- (1) 学部、学科の設置改廃に関する事項
- (2) 大谷大学職制規程第2条及び第13条に定める、教授、准教授、講師及び助教について、前項第4号以外の審査等に関する事項

- (3) 客員教授及び非常勤講師の採用に関する事項
- (4) 進級判定、卒業論文提出資格判定に関する事項
- (5) 再試験判定に関する事項
- (6) 単位認定に関する事項
- (7) 在外研究員に関する事項
- (8) 学生の休学、復学、留学、転学及び退学に関する事項
- (9) その他学長等が必要と認めた事項

教授会は、文学部、社会学部及び教育学部の専任の教授、准教授並びに講師をもって構成することとなっており、毎月第3水曜日に月1回開催することを定例とし、入学試験判定など臨時的な開催を含め、年間18回程度開催される【資料8 大谷大学教授会規程】。

## ⑫ 自己点検・評価

### 1. 自己点検・評価活動の概要

本学では、建学の理念にもとづき、その使命を達成するために、教育研究活動等の状況について不断に自己点検および評価活動を行い、教育研究水準の向上を図ることを大谷大学学則第2条に定めている。これにもとづき、1997年自己点検・評価委員会を組織し、2003年11月には「自己点検・評価規程」を制定して、継続的に自己点検・評価活動を行ってきた。また2011年10月に発表した大谷大学グランドデザイン【資料9 『グランドデザイン リーフレット』】を具体的に推進するために、組織等（各学部・学科と各事務局を指す）は2012年度から各々の目標・行動計画を策定し、年度の終わりにそれらの目標・行動計画について自己点検・評価を行う取組を始めた。年度末に提出された各組織の「自己点検・評価報告書」については、自己点検・評価委員会がその内容をチェックし所見を記載したうえで、学長に提出している。各組織は前年度の点検・評価の結果を受け、次年度の目標・行動計画を新たに策定し、改善すべき項目に取り組み、年度末には当該年度の「自己点検・評価報告書」を作成することとなっている。

これらの活動のうち、1998年大学基準協会提出の「自己点検・評価報告書」、2008年大学基準協会提出の「自己点検・評価報告書」、大学基準協会による「認証評価結果」、2012年大学基準協会提出の「改善報告書」および大学基準協会による「改善報告書検討結果」を本学HPで公開している。また各組織による「自己点検・評価報告書」の公開について2012年度は概評のみであったが、2013年度から各学科の報告書は原則大学HP上で公開している。

自己点検・評価活動の一環である「学生による授業評価アンケート」については2002年度よりその集計・分析結果を公開している。また、在学生満足度アンケートを2005年度、2009年度、2013年度に実施し、2012年度には卒業生アンケート調査を実施、全ての



調査結果を本学 HP にて公開している。

## 2. 内部質保証の方針と手続

本学の内部質保証の方針を、下記のとおり定め、本学 HP にて公表している。

### 【内部質保証の方針】

本学は、学長の責任のもと、建学の理念実現のため、中・長期目標を達成して、社会的使命の遂行に資することを目的とし、自己点検・評価活動を実施する。

自己点検・評価活動は、本学に設置された教育研究に関わるすべての組織（以下組織等）において実施し、その内容を社会へ公表する。

上記の自己点検・評価結果については、その客観性・妥当性に留意しつつ、改善・改革に活かし、教育研究の質を維持・向上させるための取り組みを全学的にすすめていく。

具体的な手続としては 2012 年度より、内部質保証の方針と手続について自己点検・評価委員会の総括担当第 1 部会において議論を重ね、2013 年 9 月「内部質保証に関する方針ならびに手続」を策定し、全学の PDCA サイクルと各組織の PDCA サイクルが連関して内部質保証を推進することを明確にした。内部質保証の手続に関しては、

【計画】学長が中・長期目標を策定して各組織に示し

【実行】各組織は、学長の指示のもと、各自の目標・行動計画を策定して実行し

【評価】その結果をチェックした「自己点検・評価報告書」を学長に提出し

【改善】学長は、それら各組織からの報告を踏まえて改善方策をまとめて組織に指示をする

という全学での PDCA サイクルを定めた。これに合わせて各組織でも【計画】学長より示された目標、各種方針にもとづいて目標・行動計画を策定し、【実行】それを実行し、【評価】年度毎に自己点検・評価活動を実施して、その結果を学長に報告する。【改善】学長から指示された改善方針と自らの点検・評価にもとづき、改善につとめるという各組織における PDCA サイクルを明確にした。

また第 3 期認証評価が示す「全学内部質保証推進組織」を明確にするために、2018 年度より自己点検・評価委員会の位置づけを改編する。これまでは、学監・副学長を委員長とし、認証評価担当学長補佐、事務部長、各種委員会から委員を選出し活動をおこない、学長に活動結果の報告を行ってきた。2018 年度からは、自己点検・評価委員会を全学的な内部質保証を推進する責任組織と位置づけ、学長が委員長となり、学監・副学長、学監・事務局長、教育・学生支援担当副学長、研究・国際交流担当副学長、学生部長、入学センター長、文学部長、社会学部長、教育学部長、大学院文学研究科長、短期大学部長、企画・入試部事務部長、総務部事務部長、学生支援部事務部長、教育研究支援部事務部長の 16 名が構成員となり、質保証の取り組みを進めることとなっている【資料 10 自己点検・評価規程】。

## ⑬ 情報の公表

本学では、「公益活動をになう社会的存在として社会に対する説明責任を果たす」こと、及び「本学における教育・研究活動の質の向上を図り魅力ある大学として評価を得る機会とする」ことを目的として、大谷大学ホームページ上において教育情報の公開を進めている。また公開諸データについては、大学基準協会『大学評価ハンドブック』の様式等を利用することにより、自己点検・評価活動と教育情報の公開を連動させ、継続的な改善・改革活動に結びつくようつとめている。現在公開している内容は、以下の通りとなっている。

### ア 大学の教育研究上の目的に関すること

#### ▼大谷大学の学部・学科の名称、教育研究上の目的及び取得可能学位の名称を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育研究上の目的及び取得可能学位の名称] 大谷大学の教育研究目的及び取得可能学位

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012h9b.pdf>

#### ▼大谷大学大学院の学部・学科の名称、教育研究上の目的及び取得可能学位の名称を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育研究上の目的及び取得可能学位の名称] 大谷大学大学院文学研究科の教育研究目的及び取得可能学位

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000001d584.pdf>

### イ 教育研究上の基本組織に関すること

#### ▼大谷大学の沿革と建学の理念、教育研究目的と教育方針及び教育研究組織を掲載

Home > 教育情報の公表 > [大学の概要] 大学の概要

<http://www.otani.ac.jp/annai/index.html>

#### ▼大谷大学、大谷大学大学院の教育研究組織の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [大学の概要] 教育研究組織

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012h1v.pdf>

### ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

#### ▼大谷大学文学部の教員の組織等について掲載

Home > 教育情報の公表 > [専任教職員数] 大谷大学文学部教員組織

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000001kk97.pdf>

#### ▼大谷大学文学部の学部・学科ごとの専任教職員数を職位別・男女別・年齢階層別に掲載

Home > 教育情報の公表 > [専任教職員数] 大谷大学文学部教員職位・年齢別一覧

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000001d598.pdf>

▼大谷大学大学院の教員の組織等について、研究科・専攻ごとの専任教員数を掲載

Home > 教育情報の公表 > [専任教職員数] 大谷大学大学院文学研究科教員組織

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000003598d.pdf>

▼教員組織や各教員が有する学位や業績を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教員組織、教員が有する学位及び業績] 文学部、大学院文学研究科、短期大学部学科教員一覧

<http://www.otani.ac.jp/kyouin/index.html>

▼教育研究業績検索システム

Home > 教育情報の公表 > [教員組織、教員が有する学位及び業績] 教育研究業績検索システム

<http://gdb.otani.ac.jp/gdb/find/>

**エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること**

▼大谷大学の入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数、退学者数、就職・進学者数等について掲載

Home > 教育情報の公表 > [入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数] 文学部

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012hfe.pdf>

▼大谷大学大学院の入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、学位授与状況、卒業者数、退学者数、就職・進学者数等について掲載

Home > 教育情報の公表 > [入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数] 大学院文学研究科

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000001njrn.pdf>

**オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること**

▼シラバス検索システム

Home > 教育情報の公表 > [業科目ごとの年間授業計画及び内容等] シラバス検索システム

<http://syllabus-pub.jp/otani/index.html>

#### ▼学年暦

Home > 教育情報の公表 > [授業科目ごとの年間授業計画及び内容等] 学年暦

[http://www.otani.ac.jp/g\\_support/nab3mq000000136c.html](http://www.otani.ac.jp/g_support/nab3mq000000136c.html)

### カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

#### ▼大谷大学の学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準及び必修・選択・自由科目別の必要単位数等について掲載

Home > 教育情報の公表 > [学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準]

文学部

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012hcz.pdf>

#### ▼大谷大学大学院の学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準及び必修・選択・自由科目別の必要単位数等について掲載

Home > 教育情報の公表 > [学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準]

大学院文学研究科

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq0000012hhb.pdf>

### キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

#### ▼本部キャンパス 総合研究室の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 総合研究室

[http://www.otani.ac.jp/study\\_support/nab3mq000000z3qr.html](http://www.otani.ac.jp/study_support/nab3mq000000z3qr.html)

#### ▼本部キャンパス 図書館の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 図書館

[http://www.otani.ac.jp/kyo\\_kikan/library/index.html](http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/library/index.html)

#### ▼本部キャンパス 語学学習支援室の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 語学学習支援室

<http://www.otani.ac.jp/kouryu/index.html>

#### ▼本部キャンパス 大学博物館の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 博物館

[http://www.otani.ac.jp/kyo\\_kikan/museum/index.html](http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/index.html)

#### ▼本部キャンパス 真宗総合研究所の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 真宗総合研究所

<http://www.otani.ac.jp/crj/nab3mq00000013wq.html>

▼本部キャンパス 主要施設の概況・建物配置図を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 主要施設概況 本部キャンパス

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1fUsJEw7pa0d6k4J2GDyoz9DoPSg&ie=UTF8&hl=ja&msa=0&ll=35.042330000000014%2C135.75898499999994&spn=0.002196%2C0.02891&z=18&source=embed>

▼湖西キャンパス 主要施設の概況・建物配置図を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 主要施設概況 湖西キャンパス

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1WqCE6WQzM6ij2RVTmaAAkg4Nh-8&hl=ja&ie=UTF8&msa=0&ll=35.10120600000001%2C135.90026699999998&spn=0.004389%2C0.005794&z=17&source=embed>

▼本部・湖西キャンパス 主要施設の校地・校舎面積を掲載

Home > 教育情報の公表 > [校地・校舎等の施設及び教育研究環境] 校地・校舎等建物面積一覧

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm-att/nab3mq000001kk9l.pdf>

## ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

▼入学金・授業料・施設費等の学費、諸会費について掲載

Home > 教育情報の公表 > [授業料、入学料及び大学が徴収する費用] 入学金、授業料、施設費等の学費及びその他の費用

<http://www.otani.ac.jp/nyushi/nab3mq0000001060.html>

▼学費の延納、学費の減免について掲載

Home > 教育情報の公表 > [授業料、入学料及び大学が徴収する費用] 学費延納、学費減免

[http://www.otani.ac.jp/g\\_support/nab3mq00000013k8.html](http://www.otani.ac.jp/g_support/nab3mq00000013k8.html)

## ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

▼学生生活支援体制（学生支援課、学生相談室、保健室、人権センター）の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援] 学生生活サポートの紹介

[http://www.otani.ac.jp/g\\_support/index.html](http://www.otani.ac.jp/g_support/index.html)

▼学習支援体制（教務課、総合研究室、語学学習支援室、情報処理室、図書館、博物館、教職支援センター、実習支援センター）の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援] 学習を支援する体制

[http://www.otani.ac.jp/study\\_support/index.html](http://www.otani.ac.jp/study_support/index.html)

▼学生相談室の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援] 心と身体のケアについて（学生相談室）

[http://www.otani.ac.jp/g\\_support/nab3mq00000013r6.html](http://www.otani.ac.jp/g_support/nab3mq00000013r6.html)

▼進路・就職支援体制（キャリアセンター）の概要を掲載

Home > 教育情報の公表 > [学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援] 進路・就職支援

[http://www.otani.ac.jp/career\\_support/index.html](http://www.otani.ac.jp/career_support/index.html)

**コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）**

▼学則の公開

Home > 大学概要 > [大学基礎データ] 学則

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000000zuw.html>

▼設置届出書関係書類等の公表

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > [設置届出書関係書類の公表] 短期大学部文化学科 廃止届出書

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000001jws4.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000001jwsx.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000001jwt4.pdf>

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > [設置届出書関係書類の公表] 文学部教育・心理学科 設置届出書

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/kihonkeikakusho.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000000acr.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000000acs3.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000000acs9.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000000acsf.pdf>

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > [設置届出書関係書類の公表] 文学部教育・心理学科  
設置計画履行状況報告書

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000001xhao.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000001jwfb.pdf>

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000acoj-att/nab3mq000000xyn4.pdf>

▼大学評価 「2014年度自己点検・評価報告書・基礎データ」

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [自己点検・評価報告書] 2014年度自  
己点検・評価報告書・基礎データ

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004ddwq.html](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004ddwq.html)

▼大学評価 大学評価結果ならびに認証評価結果

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [(財) 大学基準協会による機関別認証  
評価結果] 大谷大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq0000000zti-att/daigakuhyoukakekka\\_HP.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq0000000zti-att/daigakuhyoukakekka_HP.pdf)

▼「学生による授業評価アンケート」調査結果

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2016年度（前期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004q26f.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004q26f.pdf)

2015年度（後期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004dhc8.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004dhc8.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2015年度（前期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2tn.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2tn.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2014年度（後期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2ts.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2ts.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2014年度（前期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2tx.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2tx.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2013年度（後期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2ve.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2ve.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2013年度（前期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vj.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vj.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2012年度（後期）

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vo.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vo.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

2012 年度 (前期)

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vt.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2qo-att/nab3mq000004d2vt.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [授業評価アンケート]

▼「在学生満足度アンケート」調査結果

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [在学生満足度アンケート] 2013 年度

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2mr-att/nab3mq000004d2v7.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2mr-att/nab3mq000004d2v7.pdf)

Home > 教育情報の公表 > 大学の概要 > 大学評価 > [在学生満足度アンケート] 2009 年度

[http://www.otani.ac.jp/kikan\\_hyouka/nab3mq000004d2mr-att/nab3mq000004d2v0.pdf](http://www.otani.ac.jp/kikan_hyouka/nab3mq000004d2mr-att/nab3mq000004d2v0.pdf)

▼教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報。学部・学科、研究科・専攻での学びの特色、カリキュラムの概要や主要な授業科目の概要、身につける力、及び卒業後の進路など学生が修得すべき知識や能力に関する情報を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 文学部での学び

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 真宗学科 (思想探究コース、現代臨床コース、国際コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/shinshu/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 仏教学科 (現代と仏教コース、文化美術コース、仏教思想コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/bukkyo/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 哲学科 (西洋哲学・日本哲学コース、倫理学・人間関係学コース、宗教学・生死学コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/tetsugaku/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 社会学科 (地域政策学コース、現代社会学コース、社会福祉学コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/shakai/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 歴史学科 (日本史コース、東洋史コース、交流アジアコース、歴史ミュージアムコース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/rekishi/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 文学科 (国文学コース、中国文学コース、英文学コース、ドイツ文学コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/bungaku/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 国際文化学科 (現代アジアコース、欧米文化コース、文化環境コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/kokusai/index.html>



Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 人文情報学科 (情報マネジメントコース、メディア表現コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/jinbun/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 教育・心理学科 (教育学コース、心理学コース)

<http://www.otani.ac.jp/bungakubu/kyoikushinri/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 大学院文学研究科の学び

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/index.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 真宗学専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q0u.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 仏教学専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q29.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 哲学専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q3o.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 社会学専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q53.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 仏教文化専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q6i.html>

Home > 教育情報の公表 > [教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報] 国際文化専攻 (修士課程・博士後期課程)

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000001q7x.html>

▼教育の国際連携の状況について、本学が提携する海外の学術交流協定校に関する情報を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育の国際連携の状況] 協定を締結している海外の大学等

<http://www.otani.ac.jp/kouryu/nab3mq00000011za.html>

▼教育の国際連携の状況について、外国人留学生関連情報に対する情報を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育の国際連携の状況] 外国人留学生関連情報

<http://www.otani.ac.jp/ryugakusei/index.html>

▼世界の第一線で活躍する学者を客員教授として招き開催する大学院特別セミナーについての情報を掲載

Home > 教育情報の公表 > [教育の国際連携の状況] 大学院特別セミナー

<http://www.otani.ac.jp/daigakuin/nab3mq0000007lz1.html>

▼財務情報 学校法人真宗大谷学園

Home > 教育情報の公表 > [財務情報] 学校法人真宗大谷学園 決算報告・事業報告

[http://www.otani.ac.jp/sinsyu\\_gakuen/nab3mq0000004uo1.html](http://www.otani.ac.jp/sinsyu_gakuen/nab3mq0000004uo1.html)

▼財務情報 大谷大学・大谷大学短期大学部

Home > 教育情報の公表 > [財務情報] 財務状況 (大学)

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000000zs4.html>

## ⑭ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### 1. 教務委員会 FD 部会の設置とその取り組み

大谷大学では、教員の資質の維持向上に全学をあげて取り組む姿勢を明確にし、教育内容と学修環境のいっそうの充実につとめるために、教務委員会のなかにカリキュラムの検討を中心とする「教務部会」と、FD 活動を中心とする「FD 部会」を設置している。FD 活動とカリキュラムの連携を図りながら、教育の質の向上に資する取り組みを進めている。また FD 部会では、全ての学部・学科に FD 部会委員ないしは FD 協力員 1 名を置き、学部・学科との連携のもと全学的な参加を可能とする体制をひいている。

FD 部会では、定例の会合を年 6 回程度開催している。教育内容・授業方法の改善に関することや、FD 活動に係る研究会及び研修会に関すること、FD 活動に係る調査・研究に関すること、他大学・団体等との連携、外部の研修プログラムへの参加やその報告会の開催、その他 FD 活動全般に関すること、などについて検討・実施している。

また、研修会等の開催については、春のオリエンテーション期間、もしくは全教員が出席可能となる水曜日等の夕刻に時間を設定し、以下の研修会を企画・開催している。

[研修会等の実施内容]

- 新任教員を対象とした研修会 (学長による建学の理念に関する講演を含む)
- 新任教員を対象とした人権問題学習会
- 専任・非常勤を含めた教科別担当者連絡会
- 学長・FD 部会委員と新任専任教員との懇話会
- 全教員 (非常勤講師を含む) を対象とした FD 研修会
- 学外フォーラム等への参加及び事後報告会
- 授業評価アンケートを活用した FD の取り組みについての検討会

○京都 FD 開発推進センター主催「京都 FDer 塾ポスターセッション」における報告

## 2. 学部における教員の資質の維持向上

新設する教育学部においては、学科における教育活動の充実・向上を図るため、学科所属教員で構成する「学科会議」を設置する。学科会議は、所属教員全員が出席し、事案により事務職員（教務担当）も出席し教職の連携を図る。原則として毎月第二水曜日に定例開催し、必要に応じて臨時会議を開催する。会議では、カリキュラム全般についての確認・検討や学生指導体制、教授方法、キャリア指導、教育実習指導、学生の課外活動実施（インターンシップ、ボランティア活動、国家試験対策など）、学科の教育・研究活動全般にわたり審議・遂行する。

[学科会議における審議内容]

- 学部・学科設置趣旨・目標の確認・共有
- 学生指導方法及び成績評価基準の確認・共有
- 演習（ゼミ）運営方法の確認と情報交換
- 実習や学校ボランティア等に関する活動推進と運営・指導方法についての検討
- 学生の近況報告とその対応についての情報交換
- 採用試験対策を含めたキャリア指導の実施・運営
- 入学者アンケートの分析

## 3. 大学職員に必要な知識・技能を習得し、必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組

大学職員の能力開発のための研修については、学内研修と学外研修に大別して実施している。

学内研修は、新規採用者対象の「新人研修」、それぞれテーマを設定した「階層別研修（若手・中堅職員研修、監督職研修、管理職研修）」、配属部署に関わらず本学職員として必要な基礎知識を習得するための「基礎研修」を行っている。「新人研修」は、新任教員・事務職員を対象とし、学長による建学の理念の説明、教育研究や学生生活の現状と課題、人権教育の取組等について説明し、本学の特徴や現況が理解できるよう支援している。「基礎研修」は、20代から30代前半の事務職員を対象に、事務部長・課長が講師を務め、大学史、学校会計、学生募集、キャリア教育、研究、図書館、規程の作成・改正方法、教学運営などをテーマとして行っている。また、部署単位で実施する「部署別研修」への補助制度を設け、各課・部における独自の研修会の開催を奨励している。

学外研修は、主に他大学や学外団体が主催する研修会・講演会へ教員・事務職員を派遣することにより実施している。学外での研修会・講演会は、高等教育を取り巻く環境の変

化や先進的な事例を理解し、本学が抱えている課題の解決に向けて新しい発想を得、大学人や異業種の人とのネットワークを作る大切な機会となっている。

これら学内外の研修に教員・事務職員が積極的に参加できる環境を整えることにより、教育研究活動が円滑に遂行されるよう支援している。

## ⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### ア 教育課程内の取組について

卒業要件の現代総合科目のなかにキャリア形成系の科目群を置き、「インターンシップ」「キャリアデザイン概論」「キャリアデザイン実践」を開講している。

「インターンシップ」は、事前講義（マナー講習含む）、2週間の就業体験（実習）、事後講義と体系的に履修する教育プログラムとなっている。「キャリアデザイン概論」は、就職に関するだけでなく大学生活を主体的に過ごすために必要な知識や態度を身につけ、目標をもって大学生活を過ごすことができるよう、考える機会を提供している。「キャリアデザイン実践」は、社会のなかで自立して生きていくために何が必要なのか、自らの進路や将来について、グループワークを中心とした体験学習のなかで考える内容となっている。これらのキャリア形成に向けた体系的な科目以外に、情報処理、日本語表現、知的財産権など実践的な学びを通して社会に貢献するための幅広い知見を身につける科目も開講している。

本学部の学科専門科目では、「教職入門」を開講し、今日の社会の実態・児童の実態、学校教育の課題をふまえ、教職を志す者が自らの適性を考えながら、教職の意義や教師の役割、職務内容について基本となることがらを理解し、教職に就くことへの心構えと意識をもつ機会を提供している。

### イ 教育課程外の取組について

第1学年入学時のオリエンテーションで開かれるキャリア支援ガイダンスにおいて「キャリアデザインブック」を配布し、小中高までのキャリア（経験）を振り返るとともに、1年間の目標、4年間の目標を設定させ、大学生活の過ごし方やキャリアデザインについて考える機会を設けている。

また、各学年の年度はじめに、進路就職ガイダンスを開催し、前年度の振り返りと当該年度（学年）で取り組むべき課題の確認や目標設定を行っている。

あわせて、第1学年（新入生）を対象に「自己発見診断（診断ツールを利用した検査）」を行い、現時点での自身の強み、弱み、職業的関心を客観的に確認する機会を設け、具体的に取り組む課題の発見につなげている。なお、この検査は第3学年で実施する検査と対応しており、成長（変化）が確認できるようになっている。この結果は、第3学年後期から始まる就職活動準備に必要となる自己理解・自己分析にいかされている。

他、先輩社会人を招いての経験談を聞く会や企業の社長を招いての企業が求める人物像

や期待を聞く機会を設け、社会人となる意識の醸成につとめている。

本学部における課外の取組としては、面接や小論文試験の対策を行う「教員受験直前講習」や筆記試験（教職教養・一般教養）の対策を行う「教員受験特別講習」、採用試験の志願書の記入方法などをアドバイスする「願書記入説明会」などの対策講座を開講し、教員採用に向けた支援を行っている。

## ウ 適切な体制の整備について

### 学生支援委員会・キャリア部会

学生支援を考える組織として学生支援委員会を設置し、その下に学生部会、キャリア部会の各部会を置いている。委員会・各部会は教員委員と所管部署の部課長から構成されており、進路就職については、キャリア部会が担当し、学生支援部キャリアセンターが所管している。

キャリア部会では学生支援に関する内容、年度の目標設定、具体的な支援内容や支援方法などについて議論し、その結果を部署に下し学生支援を行っている。年度末の学生支援委員会では、各部会の目標に対する達成度や効果について検証している。結果は次年度の目標設定にいかされている。

### 学生支援部キャリアセンター

かつて就職支援に特化した部署（就職課）から、現在は進路就職にとどまらず、早い学年から将来を考えるキャリア支援、各種資格取得支援を行う部署としてキャリアセンターを設置している。キャリアセンターは7名（専任5名、嘱託2名）の常勤スタッフと個人面談や模擬面接を担当するキャリアアドバイザー（1日2～3名）の体制をとっている。

専任スタッフは個人指導のほか各種ガイダンス、資格講習などの企画・運営業務、企業対応など対外的な業務を行っている。特に昨今はメンタル面での課題を抱える学生の対応にも力を入れている。

また、毎年10月からは3年生を対象とした履歴書作成指導を行っている。その第一歩として、アドバイザーによる自己理解・自己分析のための個人面談（1名4回程度の面談）に力を入れている。この期間は個人面談を担当するアドバイザーを増員し対応している。

# 添付資料 目次

[インデックス番号]

資料 1	大谷大学特別契約教員規程	①
資料 2	履修モデル	②
資料 3	2017 年度教室稼働率	③
資料 4	第 3 期工事計画概要、工程表	④
資料 5	慶間館パンフレット（抜粋）	⑤
資料 6	実習施設一覧	⑥
資料 7	大谷大学教授会規程	⑦
資料 8	『ランドデザイン リーフレット』	⑧
資料 9	自己点検・評価規程	⑨

## ○大谷大学特別契約教員規程

(2014年9月26日制定)  
最近改正 2015年3月24日

### (設置)

第1条 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に、大谷大学職制規程(以下「職制規程」という。)第13条に基づき、特別契約教員(以下「特契教員」という。)を置くことができる。

### (趣旨)

第2条 この規程は、本学が採用する特契教員に関する必要な事項を定めるものとする。

### (採用)

第3条 特契教員は、当人が満65歳以上であつて、教育職員として本学の教育方針に賛同する者で、専門の学問領域において優れた学識・資質を有し、免許・資格に関する教育課程又はそれに準ずる教育課程の編成上必要と認められる場合に、採用することができる。

2 学長は、特契教員の採用について教授会で審議し、その意見を十分に考慮したうえで、決定する。

### (任期)

第4条 特契教員の任期は、原則として4月1日から始まる1年とする。ただし、教授会が必要と認める場合は、更新することができる。

2 前項にかかわらず、満70歳に達した年度の年度末を超えて任用することはできない。

### (任用)

第5条 特契教員は、教授、准教授又は講師に任用する。

### (職務及び制限)

第6条 特契教員は、授業の担当、研究、学生の指導その他本学が必要とする業務に従事することをその職務とする。

2 特契教員は、職務上次の制約を有する。

(1) 特契教員は、本学以外の専任教員となることはできない。

- (2) 特契教員は、教授会に出席することができる。ただし、教授会構成員としての議決権、選挙権及び被選挙権を有しない。
- (3) 特契教員は、各種委員会の委員となることはできない。ただし、学長が特に必要と認めた場合はこの限りでない。
- (4) 特契教員は、職制規程第 16 条から第 17 条の 2 までに定める役職に就くことはできない。

(採用手続等)

第 7 条 特契教員の採用手続その他就業に関する事項については、別に定める。

(給与等)

第 8 条 特契教員の給与等については、別に定める。

(所管)

第 9 条 この規程に関する事務の所管は、総務部総務課とする。

(改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、理事会で決定する。

付 則

この規程は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、2015 年 3 月 24 日に一部改正し、2015 年 4 月 1 日から施行する。



<教育学科> 「初等教育コース」履修モデル

科目区分	第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				合計							
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期									
	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数								
共通基礎科目	人間学Ⅰ	必	2	人間学Ⅰ	必	2	人間学Ⅱ	必	2	人間学Ⅱ	必	2												
	学びの発見	必	2																					
	英語Ⅰ	必	1	英語Ⅰ	必	1	英語Ⅱ	必	1	英語Ⅱ	必	1												
	英語Ⅰ	必	1	英語Ⅰ	必	1	英語Ⅱ	必	1	英語Ⅱ	必	1												
	6		4		4		4		4		0		0		0		0		18					
学科専門科目	小学校教育学演習Ⅰ	必	2	小学校教育学演習Ⅰ	必	2	小学校教育学演習Ⅱ	必	2	小学校教育学演習Ⅱ	必	2	小学校教育学演習Ⅲ	必	2	小学校教育学演習Ⅲ	必	2	小学校教育学演習Ⅳ	必	2	小学校教育学演習Ⅳ	必	2
				教育原論(小)	必	2			仏教と教育(初等)	必	2													
							特別支援教育概論(初等)	選	2			教育学概論Ⅰ	選	2	教育学概論Ⅱ	選	2							
	教職入門(小)	選	2	教育心理学(小)	選	2	教育方法論(小)	選	2	教育行財政学(小)	選	2	特別活動論(小)	選	2	教育課程論(小)	選	2	探求ゼミ(算数)Ⅲ	選	2	教育相談(小)	選	2
	こども教育史Ⅰ	選	2	発達心理学(小)	選	2	生徒・進路指導論(小)	選	2	ICT教育	選	2	探求ゼミ(算数)Ⅰ	選	2	探求ゼミ(算数)Ⅱ	選	2	探求ゼミ(理科)Ⅲ	選	2	特別支援教育実践論(初等)	選	2
	授業心理学	選	2	こども教育史Ⅱ	選	2					探求ゼミ(理科)Ⅰ	選	4	探求ゼミ(理科)Ⅱ	選	2								
	教室の心理学	選	2	障害のある子どもたち(初等)	選	2					障害児の教育(初等)	選	2											
	こどもの描画分析	選	2																					
	実践体験活動演習(小)Ⅰ	必	2	実践体験活動演習(小)Ⅱ	必	2																		
	教科(音楽)	選	2	教科(算数)	選	2	初等科教育法(算数)	選	2	初等科教育法(体育)	選	2	初等科教育法(家庭)	選	2	初等科教育法(国語)	選	2				教育実習指導(小)	選	1
	教科(体育)	選	2	教科(理科)	選	2	初等科教育法(理科)	選	2	教科(国語)	選	2	初等科教育法(生活)	選	2	初等科教育法(社会)	選	2				教育実習Ⅰ(小)	選	4
				教科(図画工作)	選	2	初等科教育法(図画工作)	選	2	初等科教育法(音楽)	選	2			初等科教育法(外国語活動)	選	2				教職実践演習(初等)	選	2	
							道徳教育の理論と方法(小)	選	2	教科(社会)	選	2			教科(外国語活動)	選	2							
							教科(生活)	選	2	教科(家庭)	選	2			小学校プログラミング演習	選	2							
										運動会実践演習	選	2			おおたにキッズキャンパス演習Ⅱ	選	2							
										おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ	選	2												
	12		16		18		18		18		14		14		4		21		117					
現代総合科目	日本国憲法	選	2							ポルトガル語圏の暮らしと言葉1	選	2	ポルトガル語圏の暮らしと言葉2	選	2									
合計		20		20		22		22		16		16		4		21		141						

\*「必」:必修科目、「選」:選択科目

＜教育学科＞「幼児教育コース」履修モデル

科目区分	第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				合計
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
共通基礎科目	人間学 I	必 2	人間学 I	必 2					人間学 II	必 2					人間学 II	必 2	
	学びの発見	必 2															
	英語 I	必 1	英語 I	必 1	英語 II	必 1	英語 II	必 1									
	英語 I	必 1	英語 I	必 1	英語 II	必 1	英語 II	必 1									
		6		4		2		2		2		0		0		2	18
学科専門科目	幼児教育演習 I	必 2	幼児教育演習 I	必 2	幼児教育演習 II	必 2	幼児教育演習 II	必 2	幼児教育演習 III	必 2	幼児教育演習 III	必 2	幼児教育演習 IV	必 2	幼児教育演習 IV	必 2	
					教育原論(幼)	必 2	仏教と教育(初等)	必 2									
	保育原理 I	選 2	発達心理学(幼)	選 2					教育人間学 I	選 2							
	授業心理学	選 2	こども教育史 II	選 2	教育方法論(幼)	選 4	教育課程論(幼)	選 2	教育心理学(幼)	選 2	教育社会学(幼)	選 2	教育相談(幼)	選 2	防災・安全教育(初等)	選 2	
	こども教育史 I	選 2	音楽理論	選 2			社会的養護	選 2	教育学概論 I	選 2	教育学概論 II	選 2	社会福祉	選 2	保育原理 II	選 2	
	こどもの描画分析	選 2	障害のある子どもたち(初等)	選 2													
	教室の心理学	選 2	教職入門(幼)	選 2													
	児童家庭福祉	選 2															
	児童文化	選 2															
			実践体験活動演習(幼) I	必 2			実践体験活動演習(幼) II	選 2									
							運動会実践演習	選 4									
							おおたにキッズキャンパス演習 III	選 2									
			保育内容(環境)の理論と方法 I	選 2	保育内容(健康)の理論と方法	選 2	保育内容(人間関係)の理論と方法	選 2	保育内容総論	選 2	保育内容(言葉)の理論と方法 II	選 2	音楽(幼) III	選 2	教育実習(幼) I	選 4	
			体育(幼)	選 2	保育内容(環境)の理論と方法 II	選 2	音楽実技 I	選 2	音楽実技 II	選 2	算数(幼)	選 2			教育実習(幼) II	選 2	
			音楽(幼) I	選 2	国語(幼)	選 2	図画工作(幼) III	選 4	障害児保育	選 2	総合表現演習 I	選 2			教育実習指導(幼)	選 1	
			図画工作(幼) I	選 2	音楽(幼) II	選 2	言語表現	選 2	保育内容(言葉)の理論と方法 I	選 2					教職実践演習(幼)	選 2	
					図画工作(幼) II	選 2	運動遊び指導法	選 2	保育内容(表現)の理論と方法	選 2							
							相談援助	選 2									
															卒業研究	必 8	
		10		18		18		20		16		10		8		21	121
現代総合科目	日本国憲法	選 2						ポルトガル語圏の暮らしと言葉1	選 2	ポルトガル語圏の暮らしと言葉2	選 2						
合計	2		0		0		0		2		2		0		0	6	
合計	18		22		20		22		20		12		8		25	145	
諸課程科目	子どもの食と栄養	自 2	子どもの保健 I b	自 2	子どもの保健 II	自 1	保育実習指導 I	自 2	社会的養護内容	自 2	保育実習 I	自 4			保育心理士実習	自 1	
	子どもの保健 I a	自 2	乳児保育	自 2	乳幼児心理学	自 2			家庭支援論	自 2	保育実習 II	自 2			保育心理士実習指導	自 1	
									保育実習指導 II	自 1	保育実習 III	自 2					
									保育実習指導 III	自 1	保育相談支援	自 2					
	4		4		3		2		5		8		0		2	28	

\*「必」:必修科目、「選」:選択科目、「自」:自由科目(諸課程科目)

<2017前期 教室稼働率(予定数)>

曜日	時限	科目数	稼働率
月	1	23	19%
	2	47	39%
	3	52	44%
	4	40	34%
	5	24	20%
	6	20	17%
	<b>小計(平均)</b>	<b>206</b>	<b>29%</b>
火	1	38	32%
	2	54	45%
	3	65	55%
	4	38	32%
	5	30	25%
	6	24	20%
	<b>小計(平均)</b>	<b>249</b>	<b>35%</b>
水	1	49	41%
	2	83	70%
	3	79	66%
	4	77	65%
	5	12	10%
	6	4	3%
	<b>小計(平均)</b>	<b>304</b>	<b>43%</b>
木	1	32	27%
	2	51	43%
	3	54	45%
	4	42	35%
	5	44	37%
	6	26	22%
	<b>小計(平均)</b>	<b>249</b>	<b>35%</b>
金	1	33	28%
	2	57	48%
	3	66	55%
	4	69	58%
	5	30	25%
	6	4	3%
	<b>小計(平均)</b>	<b>259</b>	<b>36%</b>
<b>大計(平均)</b>		<b>1267</b>	<b>35%</b>

教室数 119

<2017後期 教室稼働率(予定数)>

曜日	時限	科目数	稼働率
月	1	26	22%
	2	52	44%
	3	52	44%
	4	40	34%
	5	24	20%
	6	19	16%
	<b>小計(平均)</b>	<b>213</b>	<b>30%</b>
火	1	37	31%
	2	54	45%
	3	61	51%
	4	45	38%
	5	33	28%
	6	26	22%
	<b>小計(平均)</b>	<b>256</b>	<b>36%</b>
水	1	44	37%
	2	78	66%
	3	81	68%
	4	76	64%
	5	12	10%
	6	6	5%
	<b>小計(平均)</b>	<b>297</b>	<b>42%</b>
木	1	31	26%
	2	49	41%
	3	71	60%
	4	49	41%
	5	45	38%
	6	23	19%
	<b>小計(平均)</b>	<b>268</b>	<b>38%</b>
金	1	31	26%
	2	62	52%
	3	63	53%
	4	67	56%
	5	29	24%
	6	5	4%
	<b>小計(平均)</b>	<b>257</b>	<b>36%</b>
<b>大計(平均)</b>		<b>1291</b>	<b>36%</b>

教室数 119

# キャンパス整備計画（平成26～30年度）

現在、教室棟である1号館（旧館部分）・3号館、教員研究室棟である聞思館、事務室棟である至誠館の建て替え（新校舎建築）によるキャンパス整備を推進中である。

平成26年度は、整備計画の最終決定を行い、仮設校舎等の建築をスタートさせる。平成27年3月より、新校舎の建築を開始し、平成30年1月末竣工、4月稼働を目指している。

## ■全体スケジュール

**基本構想** 平成24年 8月 ～ 平成24年10月

**基本計画** 平成25年 8月 ～ 平成25年12月末

**基本設計** 平成26年 1月 ～ 平成26年 5月末

**【第Ⅰ期工事】仮設校舎、弓道場建設、1号館（新館）改修①**

聞思館、至誠館の撤去に備え、仮設校舎の建設。

1号館（新館）の改修。

弓道場を東キャンパスに建設。

**実施設計** 平成26年 6月 ～ 平成26年10月末

**第Ⅱ期着工** 平成27年 3月 ～ 平成28年秋

**【第Ⅱ期工事】新校舎建設①**

新校舎の南側を建設。

**第Ⅲ期着工** 平成28年10月 ～

**【第Ⅲ期工事】新校舎建設②／1号館（旧館）撤去／1号館（新館）改修②**

新校舎の北側を解体し、教室20室分を建築

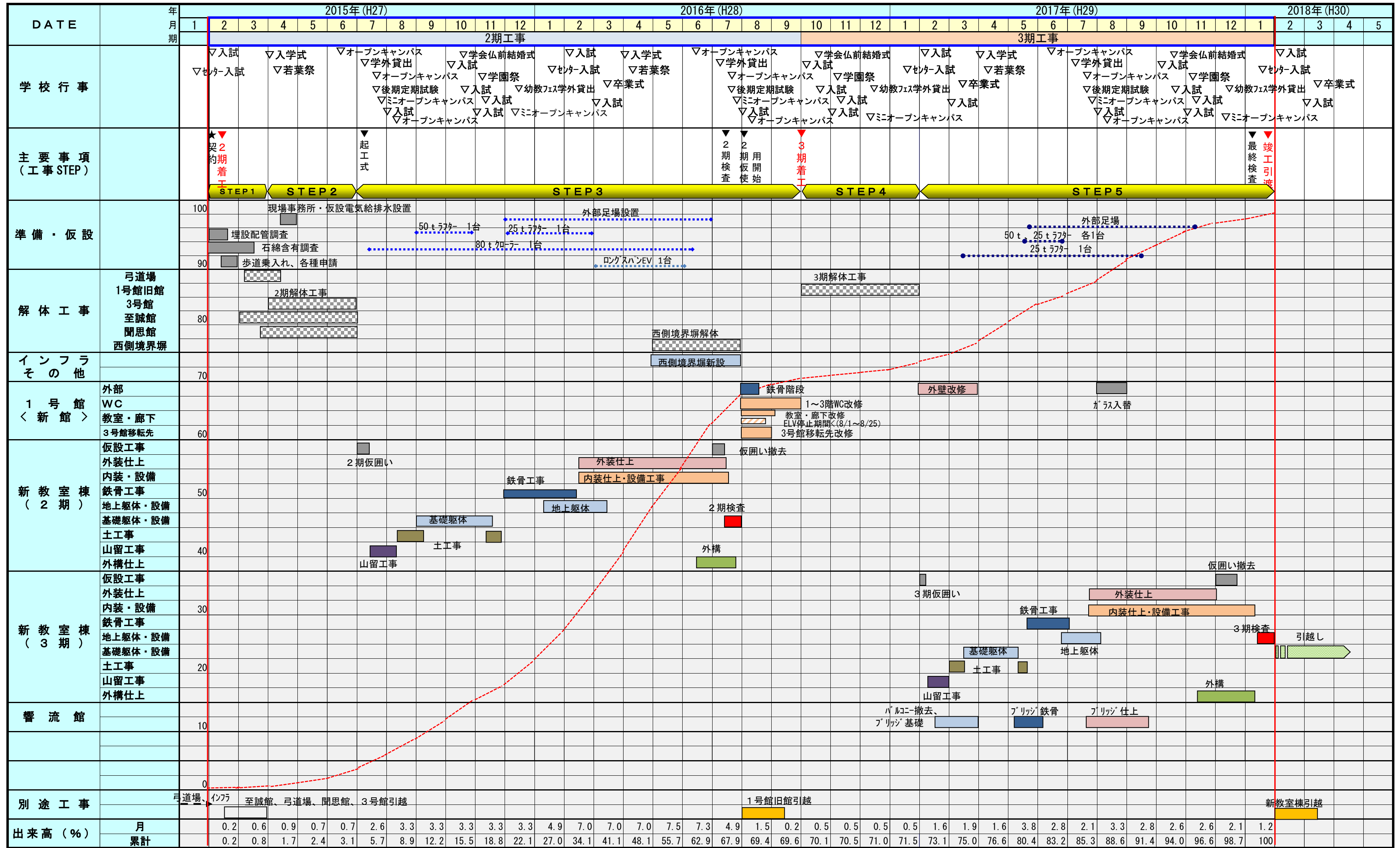
新校舎に接続する1号館（新館）の改修。

引越し後、仮設校舎を解体撤去。

**最終竣工** 平成30年 1月末（什器等は2～3月末）

**本格稼働** 平成30年 4月 ～

# 工事工程表



# 慶聞館

K Y O M O N K A N

【典拠】

視察「教行信証」総序

斯以慶所聞、嘆所獲矣。

(ここをもって、聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。)

自ら創る  
「学び」の  
かたち

伝統を、  
社会に開き、  
未来へつなく

多様な教育空間を表現し、  
主体的な学びをサポートします。

大谷  大学







自ら創る「学び」のかたち  
— 伝統を、社会に開き、未来へつなぐ —

本学は、教育・研究力のより一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりを目指して、2018年完成を目的に、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備に着手しました。これは、2014年に築53年となる既存の研究室棟（問思館）・事務室棟（至誠館）や2015年に築50年となる教室棟（1号館旧館部分）等の建て替えという、長期整備計画に基づく取り組みではありますが、本学の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた新たな本学を創造する事業として計画しました。新しい本学については、すでに2011年に、その構想を表した「大谷大学グランドデザイン」が発表されています。そこでは、初代学長清沢満之と第3代学長佐々木月樵によって示された建学の理念をもとに、大谷大学を「仏教を基盤として、人間の真の立脚地を問う」大学であると確認しています。その上で、教育のビジョンを「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を養成する」ものとして示しています。この度の新教室棟建設及びキャンパス整備計画は、長期的な大学運営構想に立った計画ではありますが、具体的には「グランドデザイン」に示された5つの基本方針を総合的に実現するための取り組みであります。

大谷大学グランドデザイン 5つの基本方針

<p>【教育に関する方針】</p> <p>社会に貢献し活躍できる能力の育成</p>	<p>【学生支援に関する方針】</p> <p>学修に専念し、充実した学生生活を支援</p>	<p>【研究に関する方針】</p> <p>学術交流の活性化</p>	<p>【社会貢献に関する方針】</p> <p>幅広く社会との連携を図る教育活動</p>	<p>【管理運営に関する方針】</p> <p>ユニバーサルデザインや環境に十分配慮した、新たなキャンパス整備</p>
---	---	-----------------------------------	---	--





学生ロビーを中心に多様な教育空間を実現し  
主体的な学びをサポート



■キャリアセンター



■語学学習支援室[グローバルスクエア]



■マルチスペース



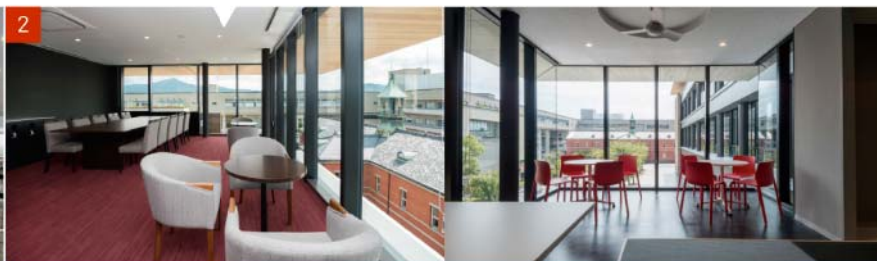


## 主体的な学びのサポート機能

学生の学びや活動を有機的にサポートし、アクティブラーニングも展開するなど、さまざまに活用されるスペースとしてマルチスペース(マルチ・サブゼミ・コモン)を各階に配置



1F 学生ロビー  
(合計178席／屋内130席・屋外48席)



2F~5F マルチスペース

各階3カ所に設けられたマルチスペースは、大谷大学のシンボルでもある源泉館を望む空間。100年間継承されて来た建学の精神を、さらに未来につなぐ「赤レンガ」を眺めながら、学生と教員、学生同士が交流を図り、アクティブラーニングを展開するなど、さまざまに活用されるスペースです。



2F/4F サブゼミスペース[プロジェクター・ホワイトボード完備]

ユニークな視点で設置されているのが、マルチスペース(サブゼミ)。2階は3階にかけた吹き抜けも利用し、開放的な空間でお互いに刺激を受けながら利用できるスペース。ユニークなスタイルで参加できる学びの機会を創出するスペースとします。



5F コモンスペース[大型モニター・ホワイトボード完備]

マルチスペース(コモン)は、グループワークやミーティングなど、アクティブラーニングへの取り組みに対応したオープンスペース。大型モニターやホワイトボードが自由に利用できるよう設計され、ラーニング・コモンズという自由な発想で、学生の自主的で活発な学びのスタイルを可能にするスペースです。



4F 響流館への連結ブリッジ

新教室棟「慶閑館」4階と、図書館・総合研究室・博物館・真宗総合研究所が配置される響流館3階との移動がスムーズに実現するブリッジです。



吹抜け[館内重力換気]

1階から5階に抜ける中央の吹き抜けは、上階につれて開口部を広くした設計とし、暖まった空気を屋外に排気する構造となっています。



4F/5F 個人研究室

教員の研究活動と学生の学びを支援するために、プライバシーと開放性を両立できるよう整備。



1F 語学学習支援室



1F 文藝塾



1F 学習支援室



1F 学生支援部事務室



教室

スクール形式の授業だけでなく、多様な授業形態に対応する移動機タイプの教室を多数配置。全館のWi-FiをはじめとするLAN設備と、さまざまなデバイスを扱うAV設備が充実しています。  
※教室名は4桁(K000)の番号で表記

1階中央エントランスに広がる学生ロビーを中心に、多様な教育空間を有機的に配置し、自らの創る「学び」が実現するようにサポートします。

中央エリアの1F中央部には、学生自身のさまざまな活動に利用できる多目的スペースとしての機能を備えた広大な「学生ロビー」を配置し、その周辺にキャリアセンターをはじめとする学生生活のサポートを行う事務室が設置されています。また、学生ロビーの周辺には、大学での基礎的な学習を個別に支援する「学習支援室(LEARNING SQUARE)」、留学・語学学習活動を幅広く支援する「語学学習支援室(GLOBAL SQUARE)」、学習・研究活動の基盤となる読み書きの高度な学修環境を提供する「文藝塾」を集約するなど、多彩な教育空間を実現しました。

小学校・幼稚園 実習校一覧

教育委員会名	京都市教育委員会	小学校：166	幼稚園：16
学校名	大谷幼稚園（京都府宇治市木幡御蔵山39-727）	学級数：8	園児数：169
教員数	11人（内訳）教諭11人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	高倉幼稚園（京都市下京区高倉通六条上ル富屋町39）	学級数：4	園児数：89
教員数	9人（内訳）教諭6人、助教諭0人、講師（専任）3人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	ときわ幼稚園（京都市下京区烏丸通七条下ル西入ル東塩小路町）	学級数：6	園児数：123
教員数	18人（内訳）教諭8人、助教諭0人、講師（専任）10人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	光徳幼稚園（京都市南区唐橋高田町59）	学級数：14	園児数：300
教員数	20人（内訳）教諭20人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	砂川幼稚園（京都市伏見区深草平田町31）	学級数：5	園児数：71
教員数	6人（内訳）教諭6人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	くるみ幼稚園（京都市南区吉祥院車道町28-2）	学級数：6	園児数：160
教員数	10人（内訳）教諭6人、助教諭4人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	天授ヶ岡幼稚園（京都市右京区花園天授ヶ岡町10-17）	学級数：7	園児数：95
教員数	11人（内訳）教諭11人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	自然幼稚園（京都市右京区太秦東蜂岡町5）	学級数：10	園児数：227
教員数	14人（内訳）教諭10人、助教諭0人、講師（専任）4人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	アソカ幼稚園（京都市下京区朱雀裏畑町33）	学級数：8	園児数：154
教員数	10人（内訳）教諭10人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		

学校名	吉田幼稚園（京都市左京区吉田上大路町36）	学級数：11	園児数：230
教員数	18人（内訳）教諭13人、助教諭0人、講師（専任）5人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	京和幼稚園（京都市上京区下立売通御前西入ル行衛町439-2）	学級数：8	園児数：183
教員数	16人（内訳）教諭16人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	浄福寺幼稚園（京都市上京区浄福寺通一条上ル笹屋町2-601）	学級数：7	園児数：131
教員数	9人（内訳）教諭9人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	紫野幼稚園（京都市北区紫竹下高才町1）	学級数：4	園児数：43
教員数	5人（内訳）教諭5人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	とうりん幼稚園（京都市北区紫竹高縄町43）	学級数：7	園児数：134
教員数	12人（内訳）教諭10人、助教諭0人、講師（専任）2人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	明幼稚園（京都市北区小山東元町35）	学級数：7	園児数：131
教員数	9人（内訳）教諭9人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	紫明幼稚園（京都市北区小山東大野町83）	学級数：4	園児数：76
教員数	9人（内訳）教諭8人、助教諭0人、講師（専任）1人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	錦綾幼稚園（京都市北区鷹ヶ峯藤林町1-5）	学級数：9	園児数：206
教員数	17人（内訳）教諭17人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		
学校名	認定こども園 日吉幼稚園（大阪府高槻市日吉台六番町10-2）	学級数：16	園児数：400
教員数	23人（内訳）教諭23人、助教諭0人、講師（専任）0人、養護教諭0人、養護助教諭0人、 栄養教諭0人		

保育所・認定こども園 実習校一覧(保育実習Ⅰ・Ⅱ)

保育所	肩書き	施設長名	所在地	承諾人数
まこと幼児園	園長	坂口 慈孝	京都市右京区嵯峨大覚寺門前登り町2	4
山ノ内保育園	園長	東 清和	京都市右京区山ノ内宮脇町9	4
西院保育園	園長	木 嶋 暁子	京都市右京区西院太田町80	4
蜂ヶ岡保育園	園長	中 西 京子	京都市右京区太秦堀ヶ内町13-11	2
一乗寺保育園	園長	荒 堀 育子	京都市左京区一乗寺御祭田町4	4
岡崎幼児園	園長	内 山 茂樹	京都市左京区岡崎最勝寺町1	4
朱い実保育園	園長	兼 田 祐子	京都市左京区吉田泉殿町6-1	4
高野川保育園	園長	矢 野 拓	京都市左京区高野泉町40-15	4
だん王保育園	園長	信ヶ原 千恵子	京都市左京区川端通り三条上ル法林寺門前町36	4
安朱保育園	園長	嶋 本 弘文	京都市山科区安朱北屋敷町9	4
東野保育園	園長	朝 倉 益光	京都市山科区東野八反畑町37	2
信愛保育園	園長	園 部 信子	京都市上京区丸太町日暮西入る西院町747	4
心月保育園	園長	金 井 幸元	京都市上京区相国寺北門前町下之町703	2
檜原保育園	園長	大仁田 由美子	京都市西京区檜原五反田5-30	4
牛ヶ瀬保育園	園長	嶋 本 弘元	京都市西京区牛ヶ瀬青柳町23	4
洛和東桂坂保育園	園長	北 村 至都子	京都市西京区御陵峰ヶ堂町2-14	2
山田保育園	園長	岡 本 康裕	京都市西京区山田南町36	2
川島保育園	園長	山 内 いづみ	京都市西京区川島粟田町40-4	4
竹の里保育園	園長	松 井 亮子	京都市西京区大原野西竹の里町2-4	2
二条保育園	園長	澤 村 忠則	京都市中京区旧丸太町千本西入	4
朱一保育園	園長	中 嶋 直子	京都市中京区壬生坊城町48-3	4
神川保育園	園長	中 茂 央	京都市伏見区久我森の宮町8-129	2
稲荷保育園	園長	前 川 喜美代	京都市伏見区深草開土口町78	2
住吉保育園	園長	清 田 元裕	京都市伏見区両替町13-197	4
待鳳保育園	園長	宮 階 市郎	京都市北区紫竹西南町13	4
洛陽保育園	園長	内 田 雅子	京都市北区紫野郷ノ上町11	2
白い鳩保育園	園長	竹 内 圭	京都市北区紫野西土居町1-20	4
のぞみ保育園	園長	神 崎 伸	京都市北区小山下内河原町15	2
上総幼児園	園長	渡 辺 秀明	京都市北区小山上総町7	4
上賀茂保育園	園長	池 田 岩太	京都市北区上賀茂池殿町55	4
旭ヶ丘保育園	園長	岡 田 哲	京都市北区西賀茂中川上町90	4
大宮保育園	園長	福 井 敦子	京都市北区大宮中ノ社町35	2
今里保育園	園長	笠 置 英恵	京都府長岡京市今里北ノ町35-2	4
友岡保育園	園長	太 田 伸彦	京都府長岡京市友岡3-8-18	4
山鳩保育園	園長	塚 本 喜美	京都府八幡市男山金振14-1	2
北里保育園	園長	中 邨 廣賢	滋賀県近江八幡市江頭町2087	2
甲西あかつき保育園	園長	参 上 道子	滋賀県湖南市柑子袋1089-1	2
菩提寺優愛保育園モンチ	園長	樋 口 剛	滋賀県湖南市菩提寺1514	2
甲南のぞみ保育園	園長	辻 森 みさき	滋賀県甲賀市甲南町稗谷2838	2
柏木保育園	園長	西 川 佳世	滋賀県甲賀市水口町植117番地	2

保育所・認定こども園 実習校一覧(保育実習Ⅰ・Ⅱ)

保育所	肩書き	施設長名	所在地	承諾人数
あさひ保育園	園長	高尾 高 鐘	滋賀県草津市笠山1丁目1-40	2
つくし保育園	園長	羽 泉 正 浩	滋賀県大津市瀬田1-2-19	2
竜が丘保育園	園長	西 田 久 美	滋賀県大津市竜が丘26-36	6
速水保育園	園長	門 池 守	滋賀県長浜市湖北町速水2277	2
チャイルドハウス	園長	井 経 子	滋賀県長浜市田村町16-6	2
長浜カトリック保育園	園長	杉 江 紀 子	滋賀県長浜市南高田町47	2
長浜愛児園	園長	鎌 田 恵	滋賀県長浜市八幡東町62	2
ずし保育園	園長	文 山 晃	大阪府高槻市辻子3-53-1	2
うづらこども園	園長	濱 上 真由美	京都市伏見区深草直違橋2-452-4	4
たかがみねこども園	園長	高 畑 延 弘	京都市北区鷹峯土天井町53	2
みんなのき三室戸こども園	園長	杉 本 一 久	京都府宇治市菟道荒槇37	4
こどもの園敬愛保育園	園長	武 藤 理 恵	大阪府茨木市中穂積3-1-22	2
認定こども園 正雀愛育園	園長	富 永 久 美子	大阪府摂津市正雀4-12-23	2
ほうなん子ども園	園長	田 原 宏 章	大阪府豊中市豊南町南5-4-7	2
合 計				162

## 施設 実習校一覧(保育実習Ⅰ)

施設の種類	施設名	肩書き	施設長名	所在地	承諾人数
母子生活支援施設	野菊荘	施設長	芹 澤 出	京都市右京区山ノ内宮脇町9-2	1
児童養護施設	迦陵園	園長	小 島 信 活	京都市左京区下鴨宮崎町109	3
母子生活支援施設	ヴェインテ	施設長	児 島 太 朗	京都市山科区大塚南溝町24-2	1
児童養護施設	和敬学園	園長	樋 口 文 昭	京都市上京区相国寺門前町704	2
児童養護施設	積慶園	園長	古 村 正 哉	京都市西京区榎原角田町1-42	5
乳児院	乳児院積慶園	院長	古 村 絢 子	京都市西京区榎原前田町1-20	4
児童発達支援センター	洛西愛育園	園長	大 橋 良 輝	京都市西京区榎原百々ヶ池23	1
児童養護施設	つばさ園	園長	石 塚 かおる	京都市西京区山田平尾町51-28	2
情緒障害児短期治療施設 (児童心理治療施設)	ももの木学園	園長	石 坂 好 樹	京都市西京区山田平尾町51-28	2
児童養護施設	平安徳義会養護園	施設長	木 塚 勝 豊	京都市西京区大原野灰方町249	4
乳児院	平安徳義会乳児院	施設長	吉 田 龍 生	京都市西京区大原野灰方町249	2
児童発達支援センター	むくの木園	園長	洪 谷 千 鶴	京都市東山区新橋通大和大路東入3丁目林下町400-3	4
児童養護施設	平安養育院	施設長	水 野 正 美	京都市東山区林下町400-3	6
障害児入所施設	大照学園(児童部)	園長	細 井 宏 俊	京都市東山区林下町402	6
児童養護施設	桃山学園	園長	岩 本 俊 也	京都市伏見区桃山町遠山50	2
児童養護施設	京都聖嬰会	施設長	杉 野 義 人	京都市北区衣笠西尊上院町22	2
児童発達支援センター	ひなどり学園	園長	脇 田 宣	京都市北区鷹峯北鷹峯町1	2
情緒障害児短期治療施設	るんびに学園	園長	高 橋 正 記	京都府綾部市十倉中町米谷16	2
児童養護施設	青葉学園	園長	坂 口 武 弘	京都府亀岡市ひえ田野町太田高星7	1
乳児院	峰山乳児院	施設長	櫛 田 恵 里 子	京都府京丹後市峰山町室27-2	2
児童養護施設・乳児院	京都大和の家	施設長	早 樫 一 男	京都府相楽郡精華町南稲八妻笛竹37	4
児童養護施設	舞鶴学園	園長	桑 原 教 修	京都府舞鶴市泉源寺立田223	1
障害者支援施設	もみじ・あざみ	施設長	松 田 圭 隆	滋賀県湖南市石部が丘二丁目1-1	2
障害児入所施設	滋賀県立近江学園	園長	植 田 重 一 郎	滋賀県湖南市東寺4-1-1	2
児童養護施設	鹿深の家	施設長	打 田 絹 子	滋賀県甲賀市甲賀町小佐治3571番地	2
乳児院	小鳩乳児院	施設長	山 本 朝 美	滋賀県大津市錦織1-14-25	2
情緒障害児短期治療施設	さざなみ学園	園長	猪 飼 久 雄	滋賀県彦根市鳥居本町1586番地	1
児童養護施設	子供の家	施設長	舟 木 康 二	大阪府茨木市北春日丘1-3-38	2
児童養護施設	遙学園	園長	村 井 徹	大阪府三島郡島本町山崎5-3-18	4

**施設 実習校一覧(保育実習Ⅰ)**

施設の種類	施設名	肩書き	施設長名	所在地	承諾人数
児童養護施設	愛染寮	寮長	末 松 保 喜	奈良県生駒市元町2-14-8	2
乳児院	いこま乳児院	院長	辻 村 万里子	奈良県生駒市元町2-14-8	2
児童養護施設	善照学園	園長	松 本 義 博	兵庫県西宮市山口町船坂2128-1	2
合 計					80

**施設 実習校一覧(保育実習Ⅲ)**

施設の種類	施設名	肩書き	施設長名	所在地	承諾人数
児童養護施設	平安徳義会養護園	施設長	木 塚 勝 豊	京都市西京区大原野灰方町249	5
乳児院	平安徳義会乳児院	施設長	吉 田 龍 生	京都市西京区大原野灰方町249	5
合 計					10



## 実習施設（保育心理士実習）

公益財団法人 大谷保育協会	京都支部	支部長	清田 元裕	幼稚園	10
				保育所	20
				認定こども園	1
合 計					31

# ○大谷大学教授会規程

最近改正 2017年3月2日

## (趣旨)

第1条 この規程は、大谷大学学則第7条第2項に基づき、教授会の運営に関する必要事項を定めるものとする。

## (構成)

第2条 教授会は、文学部、社会学部及び教育学部の専任の教授、准教授並びに講師をもって構成する。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は、その期間中構成員から除くものとする。

- (1) 休職中の者
- (2) 休業中の者
- (3) 在外研究中の者

## (招集)

第3条 学長は、教授会を招集し、学監・副学長が議長となる。

- 2 学長は、必要により大谷大学短期大学部との連合教授会を招集することができる。
- 3 学長は、構成員の4分の1以上の者から招集の請求があるときは、これを招集しなければならない。

## (定足数)

第4条 教授会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。

- 2 議事は、出席者の過半数でこれを決める。可否同数のときは議長の決めるところによる。

## (審議事項)

第5条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 教育課程の編成に関する事項
  - ア 大谷大学学則の改正に関する事項
  - イ 履修規程の改正に関する事項
  - ウ 大谷大学学位規程の改正に関する事項
- (4) 教員の教育研究業績の審査等に関する事項
  - ア 大谷大学職制規程第2条及び第13条に定める、教授、准教授、講師及び助教の採用並びに昇格に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長、学監、副学長及び部科長等（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 学部、学科の設置改廃に関する事項
- (2) 大谷大学職制規程第2条及び第13条に定める、教授、准教授、講師及び助教について、前項第4号以外の審査等に関する事項
- (3) 客員教授及び非常勤講師の採用に関する事項
- (4) 進級判定、卒業論文提出資格判定に関する事項
- (5) 再試験判定に関する事項
- (6) 単位認定に関する事項
- (7) 在外研究員に関する事項
- (8) 学生の休学、復学、留学、転学及び退学に関する事項
- (9) その他学長等が必要と認めた事項

（会議の出席）

第6条 学長は、必要と認めた場合、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

（所管）

第7条 この規程に関する事務の所管は、学生支援部教務課とする。

（改廃）

第8条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

この規程は、 年 月 日から施行する。

付 則

この規程は、1969年6月25日から施行する。

付 則

この規程は、2006年12月20日に一部改正し、2007年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2008年6月1日一部改正し、同日から施行する。

付 則

この規程は、2015年3月5日に一部改正し、2015年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2017年3月2日に一部改正し、2018年4月1日から施行する。

# ブランドデザイン

2012年度—2021年度

## 1. 理念・使命

本学は、寛文3年(1665)に風雲聖人の教えを講究すべく設立された東本願寺の学舎を前身とする。そして、明治34年(1901)に初代学長・湖澤清之によって近代的大谷として東京に開学された。それは「他の学校とは異なる宗教学校」「佛土宗教の学園」でありつつ「重要な科の学問」をも備えて、親連する明治社会に対して、人間の真の立脚地(真宗)を問いかける宗教師の使命感をめざすものであった。

そして、大正11年(1922)大学令により「大谷大学」を名のるに際し、第三代学長・佐々木月庵によって、「仏教を学問に解し」、「仏教を教育からして国民に普及すること」が明示され、宗教師の志をそなえた教育者をも多く輩出するに至った。戦後は新制大学として人文部学科をより充実し、人間の真の生き方を問う卒業生を広く社会に送り出してきたが、近代科学の発展、高度経済成長の間に、幾々の理念の向はともすれば消されそびれていってしまったことは認めなければならない。

しかし、高齢化社会や少子化による人口減少など、様々な問題に直面する現在の日本において、真宗・仏教を基盤として人間の真の立脚地を問う人物を養成する本学の建学理念はますます重要となりつつある。ゆえに我々は、「人間学」を基盤とした人文部学科における学びを通じて、価値観・人生観の刷新する現代社会の只中において、人間の確固たる生き方を探求する独立者の育成が本学の使命であることを確認する。

## 2. 10年後のビジョン・目的

以上のような理念・使命のもとに、学園に規定する「大学の目的」及び「人物養成の目的」を踏まえ、本学のブランドデザインにおける人物養成の基本目的を「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることが出来る人物を育成する」と設定し、以下に述べる目標(行動計画)を策定し、教職員・卒業生・新入生一体となって、その実現に向けた取り組みを進める。

そのビジョンは、例えば、学校の教員や卒業生の間においても、またグローバルに展開する企業においても、地域に根ざした活動においても、決してアジアでも、そして世界の本質でも、人と人のつながりの中で自分自身の本質を見取り、共に働く喜びを創造せんとする理想とした人物を養成していくことである。それゆえ本学は、過去に、また近い異国において生きた人々の言葉の中から自分らのメッセージを聞き取り、その原動力を本学と共に学びを深めていく。

本学における学びは、何よりもそのようなメッセージを問出し、それを共に伝えていくことである。講義の音が流れる教室で、留学生の反響も響き、講習会での発言で、ゼミでの議論で、研究室での会話で、そして卒業論文(卒業)をまとめるまで、このようにコミュニケーション能力・適性を徹底的に鍛え上げていくことである。そして、この卒業論文を最大限とするカリキュラムにおいてこそ、先の見えない問題に直面しても、他者の言葉に耳を傾け課題を析出し、基本的な作業をいとわず、自らが立ち上げた声で発言し、信念を持って問題の解決に踏み出すという社会生活における基本姿勢を構築していく。ゆえに、本学のキャンパスは自らが立ち上げた声が行き交う場から育むべき学び舎として形成されなければならない。

このように、「人間学」を基盤とする学びをコミュニケーション能力の両輪において展開することにより、自己を見つめつつ、他者と共に社会の課題を歩み寄り、育ち、育つ人物を養成していく。それは、本学学生と教職員が自信と誇りを持ってそれぞれの本務を遂行するところから実現されるであろう。

2011年10月13日

大谷大学・大谷大学短期大学部 学長 草野 颯之





### 理念・使命

真宗大谷学園  
【設立の願い】：浄土真宗の精神を世界に開くことを使命とする  
【教育の理念】：人間をエゴイズムから解放する教育と研究  
【教育の方針】：真の独立者として相互敬愛の心を育する人物を育成する

### 大学の理念

### 使命

仏教を基盤として人間の真の立脚地を問う人物の養成  
「人間学」を基盤にした人文諸学科における学びを通して、価値観・人生観の動揺する現代社会の只中において人間の輝きたる生き方を探求する独立者の育成

### ビジョン

## 仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を育成する

### 方針



#### グランドデザインの目的とするところ

- 1) 2024年4月1日から2024年3月31日まで(令和6年度)までの期間
- 2) 2024年度3期に限り、各学科・専攻部局においてさらに具体的な行動計画を個別・自派し実行する。

## ○自己点検・評価規程

(2013年2月25日制定)

最近改正 2017年3月9日

### (目的)

第1条 この規程は、大谷大学学則第2条、大谷大学大学院学則第2条、大谷大学短期大学部学則第2条の規定に基づき、大谷大学及び大谷大学短期大学部（以下「本学」という。）が行う高等教育機関としての内部質保証にかかわる自己点検・評価活動について定め、もって教育研究水準の向上を図ることを目的とする。

### (体制)

第2条 本学は、前条の目的を達成するために、内部質保証委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 教育研究に関わるすべての組織（以下「組織等」という。）は、委員会の下、不断に自己点検・評価活動を行う。

### (委員会の構成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 学監・副学長
- (3) 学監・事務局長
- (4) 教育・学生支援担当副学長
- (5) 研究・国際交流担当副学長
- (6) 学生部長
- (7) 入学センター長
- (8) 文学部長
- (9) 社会学部長
- (10) 教育学部長
- (11) 大学院文学研究科長
- (12) 短期大学部長
- (13) 企画・入試部事務部長
- (14) 総務部事務部長
- (15) 学生支援部事務部長
- (16) 教育研究支援部事務部長

- 2 学長が必要と認めた場合は、学外から委員若干名を委嘱することができ、その任期は1年とする。
- 3 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の教育職員及び事務職員の出席を要請し、意見を聴くことができる。
- 4 委員会に事務を担当する幹事1名を置き、企画・入試部企画課長をこれに充てる。

(委員長)

第4条 委員会の委員長は、学長がこれに当たる。

(委員会の招集)

第5条 委員長は、委員会を招集し、学監・副学長が議長となる。

(委員会の定足数)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員会の審議事項)

第7条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 内部質保証のための方針及び手続きに関する事項
- (2) 自己点検・評価活動の実施に関する事項
  - ア 自己点検・評価報告書の検証
  - イ 自己点検・評価報告書の公表
  - ウ 外部評価結果の検証
  - エ 改善の指示及びその検証
  - オ 認証評価の受審及び評価結果への対応
- (3) その他必要な事項

(公表及び改善報告)

第8条 自己点検・評価報告書の公表は、学長が行う。

2 前条第2号エにより改善を指示された組織等は、委員会が定める期間内にその改善状況について委員会に報告しなければならない。

(運営部会)

第9条 委員会は、委員会が第7条第2号ア、ウ及びオを行うために、運営部会を置く。

- 2 運営部会の委員は、委員長が本学の教育職員及び事務職員のうちから指名する。
- 3 運営部会の部会長は、委員のうちから選出する。
- 4 運営部会が必要と認めた場合は、委員以外の出席を要請し、意見を聴くことができる。

(運営部会の任務)

第10条 運営部会は、次に掲げる任務を遂行する。

- (1) 自己点検・評価報告書のまとめ
- (2) 外部評価の実施
- (3) 認証評価受審のための報告書の作成

(作業部会)

第11条 委員会は、自己点検・評価活動に係る調査等のために、作業部会を置くことができる。

(所管)

第12条 この規程に関する事務の所管は、企画・入試部企画課とする。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

- 1 この規程は、2013年4月1日から施行する。
- 2 「大谷大学自己点検・評価規程(2003年11月1日制定)」は、廃止する。

付 則

この規程は、2017年3月9日に一部改正し、2018年4月1日から施行する。